

6 CM データビューア

6.1 画面構成

本節ではデータビューアの画面構成と画面各部の概要を説明します。



■コントロールメニュー ボックス

このボックスをマウスで左クリックすると、ウィンドウに対する操作を行うメニューが表示されます。[コントロール]メニューでは、ウィンドウの大きさの変更や移動、アプリケーションの切り替え、ウィンドウを閉じるなどの操作が行えます。

■タイトルバー

タイトルと、対象クライアント名が表示されます。

■最小化ボタン

データビューアのウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

データビューアのウィンドウサイズを画面全体に広げます。また、画面全体に広がった状態で押すと、元のウィンドウサイズに戻ります。

■閉じるボタン

データビューアを閉じます。

■ツリービュー

対象クライアントのコンポーネントを表示します。

■情報ビュー

左側のツリービューで選択されたコンポーネントの情報を表示します。

■メニュー バー

メニュー バーにはデータビューアで使用できる機能がグループ別に示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。

■ツールバー

データビューアで全般的に使用する機能をボタンとして表示します。ボタンを選択すると対応した機能を実行します。

■ステータスバー

作業中の機能説明や表示ボタンの状態を示す色の凡例等を表示します。

6.2 メニュー

次の8種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) 設定
- 5) ツール
- 6) 電源
- 7) オプション
- 8) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

6.2.1 ファイルメニュー



- 「ファイル」・「新しいデータビューア」

新しいデータビューアを起動します。起動したデータビューアでは、はじめにマネージャ名を指定し、次に表示したいクライアント名を指定します。

- 「ファイル」・「印刷」

現在、画面上に表示している情報をテキスト形式で印刷します。

- 「ファイル」・「すべて印刷」

現在、ツリー上に表示しているクライアントの情報をテキスト形式で印刷します。すべての情報を取得するため、時間がかかる場合があります。

- 「ファイル」・「プリンタの設定」

プリンタ、印刷の設定を変更します。印刷、またはすべて印刷を行う時も、プロパティの変更を行うことで同様の設定が可能です。

- 「ファイル」・「終了」

データビューアを終了します。

6.2.2 編集メニュー



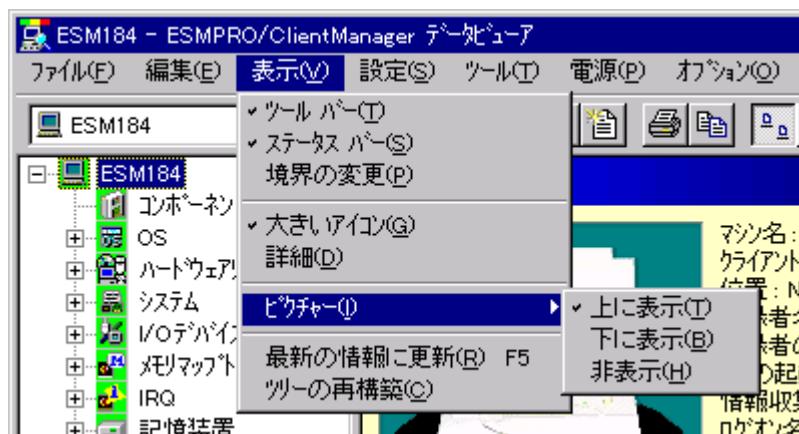
- 「編集」・「コピー」

現在、画面上に表示している情報をテキスト形式でクリップボードにコピーします。

- 「編集」・「すべてコピー」

現在、ツリー上に表示しているクライアントの情報をテキスト形式でクリップボードにコピーします。すべての情報を取得するため、時間がかかる場合があります。

6.2.3 表示メニュー



- 「表示」・「ツール バー」

ツールバーの表示／非表示を切り替えます。

- 「表示」・「ステータス バー」

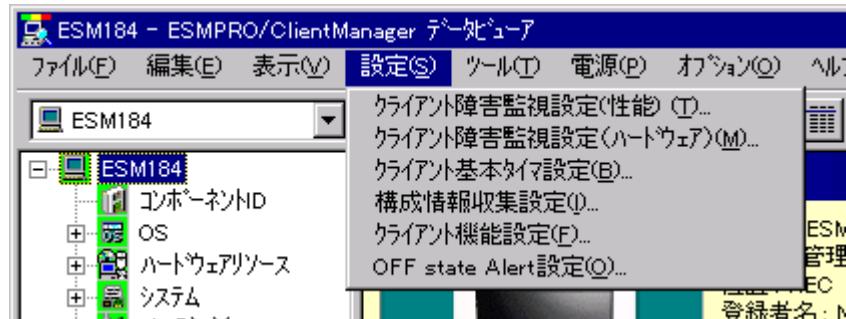
ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。

- 「表示」・「境界の変更」

ツリーと情報ビューを区切る境界の位置を変更します。

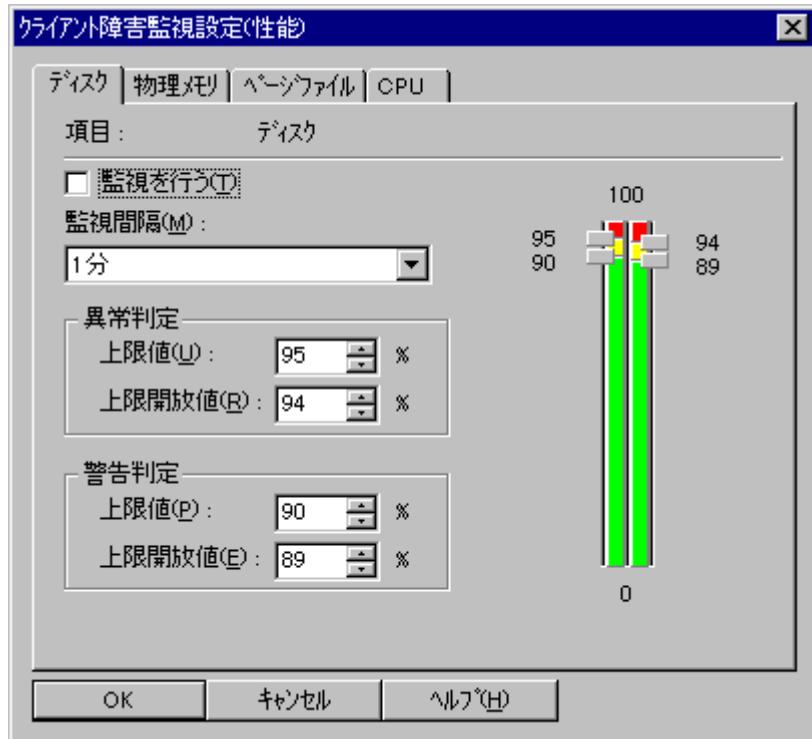
- 「表示」・「大きいアイコン」
情報ビューに大きいアイコンで表示します。
- 「表示」・「詳細」
情報ビューに詳細情報を表示します。
- 「表示」・「ピクチャ」・「上に表示」
情報ビューの絵を画面上部に表示します。
- 「表示」・「ピクチャ」・「下に表示」
情報ビューの絵を画面下部に表示します。
- 「表示」・「ピクチャ」・「非表示」
情報ビューの絵を表示しません。
- 「表示」・「最新の情報に更新」
現在、表示している情報ビューを最新の情報に更新します。
- 「表示」・「ツリーの再構築」
ツリーを再構築します。すべての情報を取得するため、時間がかかる場合があります。

6.2.4 設定メニュー



- 「設定」・「クライアント障害監視設定（性能）」

「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスにて、クライアントにおける障害監視間隔、しきい値を設定します。ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定を行いたい場合は、「7 CM 管理ツール」を参照してください。



* 項目

障害監視を行う項目名を表示します。

* 監視を行う

チェックすると、障害監視を行います。チェックをはずすと、この項目については障害監視を行いません。

* 監視間隔

ドロップダウンリストから監視間隔を選択します。1分、5分、30分、1時間、1日、1週間の中から選択します。クライアントでは、ここで選択した間隔ごとに、しきい値のチェックが行われ、障害が検出された場合はマネージャにアラートが通知されます。

* 上限値（異常）

異常判定を行う上限値を設定します。この値を超えると異常レベルのアラートが通知されます。この値は、[上限開放値（異常）]よりも大きい値でなければなりません。

* 上限開放値（異常）

異常判定を解除する値を設定します。この値を下回ると異常レベルから警告レベルへ復旧したという旨の警告レベルのアラートが通知されます。この値は、[上限値（警告）]よりも大きい値でなければなりません。

* 上限値（警告）

警告判定を行う上限値を設定します。この値を超えると警告レベルのアラートが通知されます。この値は、[上限開放値（警告）]よりも大きい値でなければなりません。

* 上限開放値（警告）

警告判定を解除する値を設定します。この値を下回ると警告レベルから正常レベルへ復旧したという旨の正常レベルのアラートが通知されます。

* OKボタン

入力された値をクライアントに通知します。

* キャンセルボタン

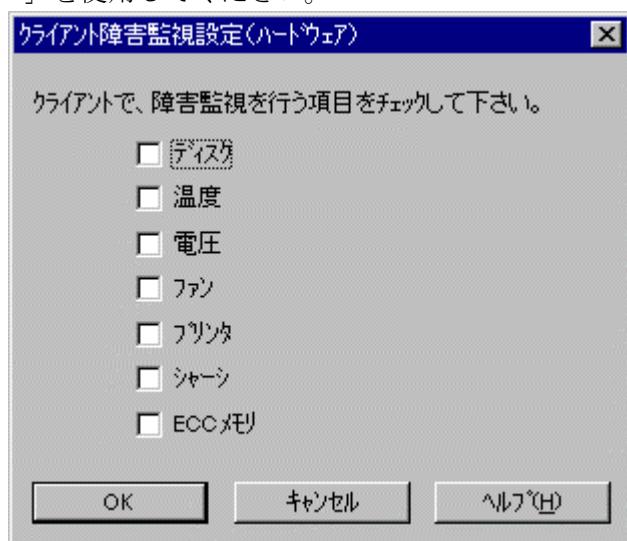
変更を破棄して「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスを閉じます。

* ヘルプボタン

オンラインヘルプへアクセスします。

● 「設定」・「クライアント障害監視設定（ハードウェア）」

クライアントにおけるハードウェア障害の監視を行う項目を設定します。ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定したい場合は、「7 CM 管理ツール」を使用してください。



* ディスク

ディスク障害の監視を行うかどうかチェックします。

* 温度

温度異常の監視を行うかどうかチェックします。

* 電圧

電圧異常の監視を行うかどうかチェックします。

* ファン

ファンの回転数異常の監視を行うかどうかチェックします。

*** プリンタ**

プリンタ障害の監視を行うかどうかチェックします。

*** シャーシ**

シャーシの開閉状態の監視を行うかどうかチェックします。

*** ECCメモリ**

ECCメモリ障害の監視を行うかどうかチェックします。

*** OKボタン**

入力された項目値をクライアントに通知します。

*** キャンセルボタン**

変更を破棄してクライアント障害監視設定（ハードウェア）ダイアログを閉じます。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプへアクセスします。

データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに実装されている、構成情報を取得するためのサービスレイヤの種類によって、障害監視を行えない項目があります。以下に、クライアントに実装されているサービスレイヤの種類ごとに、監視可能な項目を示します。

	サービスレイヤタイプ			
	DMITOOL for PC-9821	DMITOOL for PC98-NX / ProMate	Intel LDCM	その他
ディスク	○	○	×	×
温度	×	○	×	×
電圧	×	○	×	×
ファン	×	○	×	×
プリンタ	○	○	×	×
シャーシ	×	○	×	×
ECCメモリ	×	○	×	×

注意 :

(1)ハードウェアの障害監視を行うためには、クライアント側の設定が必要になります。

「5.4 障害監視設定および通報設定」を参照してください。

(2)Intel LANDesk ClientManagerや他のDMIサービスプロバイダを利用する場合には、統合ビューアで直接DMIのイベント（温度異常など）を受信してください。

● 「設定」・「クライアント基本タイマ設定」

クライアントにおける基本タイマを設定します。[基本タイマ]と[倍率]は、クライアントにおける性能情報の採取方法を決定します。基本タイマごとに性能情報を取得し、倍率回の平均値を現在の性能情報とします。たとえば、[基本タイマ]を10秒、[倍率]を6とした場合、10秒ごとに各使用率を取得し、過去6回の平均値を現在の使用率とします。

ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定を行いたい場合は、CM管理ツールを使用してください。CM管理ツールの詳細については、「7 CM管理ツール」を参照してください。



* 基本タイマ

基本タイマを設定します。クライアントは、ここで設定した時間ごとに情報を取得します。

取得する情報は、[設定(S)]メニューの[クライアント機能設定(F)]で設定した項目になります。

* 倍率

基本タイマの倍率を設定します。クライアントは、基本タイマごとに取得した情報をこの倍率で平均したものを、現在の情報とします。

● 「設定」・「構成情報収集設定」

クライアントにおいて、構成情報を収集する周期・時間を設定します。構成情報とは、データビューアが表示する、クライアントの詳細情報のことです。クライアントでは、ここで設定した周期・時間の組み合わせにより、構成情報を収集し、変更があったものについてマネージャに通知します。

ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定を行いたい場合は、「7 CM管理ツール」を参照してください。

各項目は以下のとおりです。



* 周期

構成情報を収集する周期を設定します。周期は、[毎回]／[n日毎]／[曜日指定]／[日付指定]から選択します。

[毎回]

[時間]が指定されていない場合には、[契機]で指定されたタイミングで構成情報を収集します。
[時間]が指定されている場合には、[契機]で指定された状態（ログオン／システム起動）の指定時間に構成情報を収集します。指定時間にログオン／システム起動されていない場合には指定時間後、ログオン／システム起動時に構成情報を収集します。
この値が既定値となります。

[n 日毎]

[時間]が指定されていない場合には、前回収集した時間から指定された日数が経過した後、[契機]で指定されたタイミングで構成情報を収集します。

[時間]が指定されている場合には、前回収集した時間から指定された日数が経過した後、[契機]で指定された状態（ログオン／システム起動）の指定時間に構成情報を収集します。指定時間にログオン／システム起動されていない場合には指定時間後、ログオン／システム起動時に構成情報を収集します。

[n 日毎]の指定の場合、1日に複数回構成情報が収集されることはありません。

[曜日指定]

[時間]が指定されていない場合には、指定された曜日の[契機]で指定されたタイミングで構成情報を収集します。

[時間]が指定されている場合には、指定された曜日の[契機]で指定された状態（ログオン／システム起動）の指定時間に構成情報を収集します。指定時間にログオン／システム起動されていない場合には指定時間後、ログオン／システム起動時に構成情報を収集します。

曜日は、複数指定することが可能です。

[日付指定]

[時間]が指定されていない場合には、指定された日付の[契機]で指定されたタイミングで構成情報を収集します。

[時間]が指定されている場合には、指定された日付の[契機]で指定された状態（ログオン／システム起動）の指定時間に構成情報を収集します。指定時間にログオン／システム起動されていない場合には指定時間後、ログオン／システム起動時に構成情報を収集します。

日付は、複数指定することが可能です。

* 時間

[時間指定なし]

時間指定による構成情報の収集を行いません。

この値が既定値となります。

[時間指定]

指定した時間に構成情報の収集を行います。時間は、24時間単位で指定します。

* 契機

[ログオン時]

[時間]が指定されていない場合には、ログオン時に構成情報を収集します。

[時間]が指定されている場合には、指定時間にログオンされていれば構成情報を収集します。

指定時間にログオンされていない場合は、その後ログオンした時に収集します

この値が既定値となります。

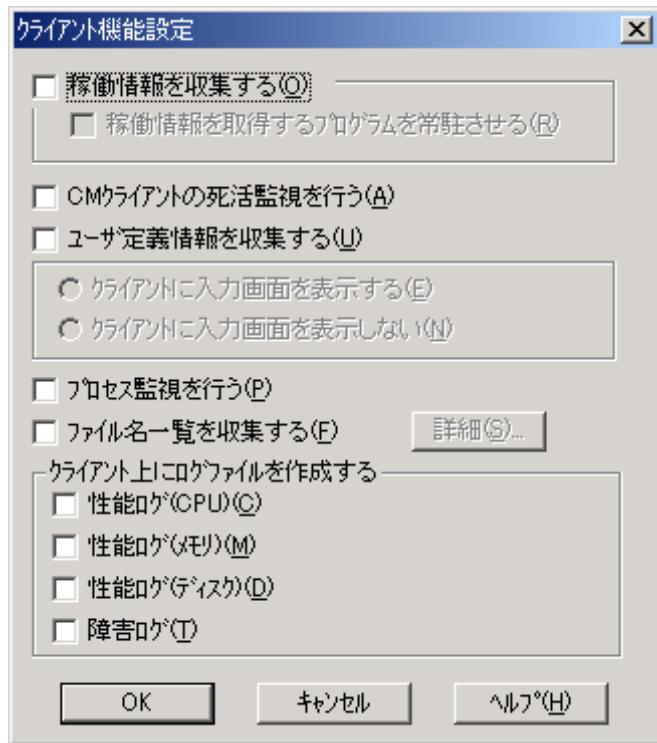
[システム起動時]

[時間]が指定されていない場合には、システム起動時に構成情報を収集します。

[時間]が指定されている場合には、指定時間にシステムが起動されていれば構成情報を収集します。指定時間に起動されていない場合は、その後起動した時に収集します

● 「設定」・「クライアント機能設定」

クライアントの機能を設定します。ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定を行いたい場合は、「7 CM 管理ツール」を参照してください。



* 稼働情報を収集する

クライアントの稼働情報を収集するか否かを設定します。

クライアントに、稼働情報を取得するプログラムを常駐させると、より正確な稼働情報を取得することができます。常駐させない場合、マネージャが停止している間の、クライアントの稼働情報を取得することはできません。

* CMクライアントの死活監視を行う

死活監視を行うか否かを設定します。死活監視の詳細については、「14.3 死活監視」を参照してください。

* ユーザ定義情報を収集する

ユーザ定義情報を収集するか否かを設定します。ユーザ定義情報を収集する場合は、以下のいずれかを選択してください。

○クライアントに入力画面を表示する

クライアント上にユーザ定義情報を入力するためのダイアログを表示します。ダイアログは、クライアントにユーザがログオンする度に表示します。

○クライアントに入力画面表示しない

クライアント上にユーザ定義情報を入力するためのダイアログを表示しません。APIを用いてユーザ定義情報を入力する場合の指定です。

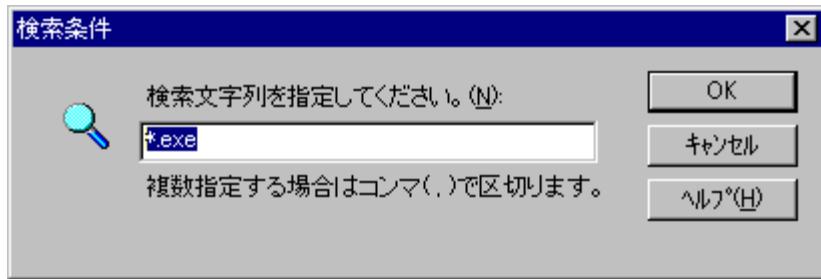
ユーザ定義情報の詳細については、「14.2.3 ユーザ定義情報の設定」を参照してください。

* プロセス監視を行う

プロセス監視を行うか否かを設定します。プロセス監視の詳細については、「12.プロセス監視」を参照してください。

* ファイル名一覧を収集する

クライアント上のファイル名一覧の収集を行うか否かを設定します。収集するファイル名を指定するには、[詳細]ボタンを押して開く「検索条件」ダイアログで指定してください。



収集するファイル名の検索条件を指定します。

Aで始まるファイルを探すには、"A*"を指定します。複数指定する場合には、"*.EXE,*.DLL,*.BAT"のようにコンマ(,)で区切って指定します。

* クライアント上にログファイルを作成する

クライアント上にログファイルを作成するか否かを設定します。採取するログをチェックします。採取できるログは以下のとおりです。

- [性能ログ (CPU)]
- [性能ログ (メモリ)]
- [性能ログ (ディスク)]
- [障害ログ]

採取したログは、[ツール(T)]メニューの[ファイル転送(F)]を使って、クライアントから転送することができます。ログファイルの転送についての詳細は、「6.2.5 ツールメニュー」を参照してください。

● 「設定」・「OFF state Alert設定」

クライアントにおける OFF state Alert に関する設定を行います。OFF state Alert は、クライアントの電源が OFF の状態でも、筐体の開閉、CPU/LAN ケーブル抜けを常時監視してサーバ(管理者)に通知する機能を提供します。OFF state Alert については、OFF state Alert の説明書を参照してください。

ここで設定した値は、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して有効になります。表示していないクライアントに設定したい場合や、複数のクライアントに対して一度に設定を行いたい場合は、CM 管理ツールを使用してください。



* アラートを有効にする

監視を行うか否かを設定します。

* アラート

監視を行う項目を選択します。監視可能な項目は以下のとおりです。

[カバー不正操作]

クライアントの筐体カバーが取り外された場合に、サーバにアラートパケットを送信します。

アラートパケットは、3回送信します。再送間隔を指定してください。

[LANケーブル脱落]

クライアントのLANケーブルが取り外され、再度接続された場合に、サーバにアラートパケットを送信します。

アラートパケットは、3回送信します。再送間隔を指定してください。

[プロセッサ不在]

クライアントのプロセッサが取り外された場合に、サーバにアラートパケットを送信します。

アラートパケットは、3回送信します。再送間隔を指定してください。

[ハートビート]

クライアントが、定期的にハートビートパケットをサーバに送信し続けることで、サーバがクライアントの存在を確認します。ハートビートパケットの送信間隔を指定してください。

LANにパケットを出しつづけます。回線が細いところではあらかじめ問題が調べてからご利用ください。

[ウォッチドッグ]

OSがハングアップしていないかを定期的にしらべます。OSのハングアップを検出した場合には、CMデータビューアの「電源」 - 「OSA II」でOSA IIの機能を利用してリブートを行うことができます。

*** サーバ**

サーバ（管理者）のIPアドレス、MACアドレス、UDPポートを指定します。

クライアントが、自動で設定することもできます。ただし、IPアドレスとUDPポートについては、一度、値を設定してしまうと、クライアント自動設定は選択することができなくなります。

*** UUID**

クライアントを識別するためのUniversally Unique IDを表示します。この値を変更することはできません。

6.2.5 ツールメニュー



● 「ツール」・「リモートコントロール」

WinShare を起動し、クライアントのディスプレイイメージを、ローカルディスプレイに表示します。ローカルディスプレイに表示されたクライアントのディスプレイイメージを操作することにより、クライアントをリモートコントロールすることができます。リモートコントロールの詳細については、「10 WinShare」を参照してください。

リモートコントロールは、データビューアで現在、情報を表示しているクライアントに対して実行されます。表示していないクライアントをリモートコントロールしたい場合は、CM 管理ツールを使用してください。CM 管理ツールの詳細については「7 CM 管理ツール」を参照してください。



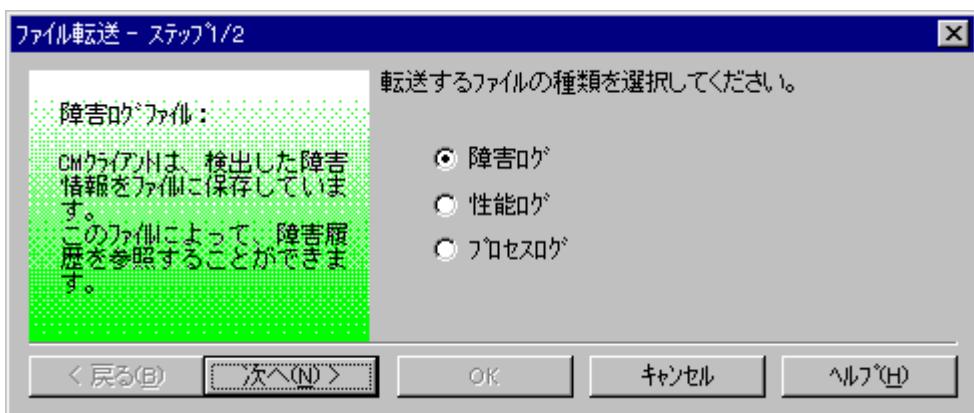
* 画像データを圧縮する

WinShare動作時、画像データを圧縮するかどうかを設定します。データビューアを起動しているシステムと、クライアントシステムとの間が転送速度の遅い回線で接続されている場合にチェックしてください。

● 「ツール」・「ファイル転送」

データビューアで現在、情報を表示しているクライアントから「障害ログファイル」、「性能ログファイル」を転送し、指定ディレクトリに格納します。

ステップ1では、転送するファイルの種類を選択します。



* 障害ログ

クライアントで検出された、障害情報を格納しています。ファイル名は、CALERT.LOGです。

* 性能ログ

CPU使用率、メモリ使用率、ディスク使用率を、それぞれCSV形式で格納しています。これらの値は、[設定(S)]メニューの[クライアント基本タイマ設定(B)]で設定された[基本タイマ]ごとに取得した使用率を、[倍率]回で平均したものです。たとえば、[基本タイマ]=10秒、[倍率]=6と設定されている場合、10秒ごとに各使用率を取得し、6回の平均値をファイルに記録するので、1分ごとの平均使用率が得られます。

ファイル名は、CPU.CSV、MEMORY.CSV、DISK.CSVです。

* プロセスログ

プロセス監視の結果を格納しています。ファイル名は固定ではありません。ファイル名については「12.プロセス監視」を参照してください。

ステップ2では、ファイルを格納するディレクトリ名を設定します。ディレクトリ名は必ずフルパス名を指定してください。また、ローカルディスクに存在するディレクトリを指定してください。ネットワークドライブ上のディレクトリを指定した場合は、ファイル転送がエラーとなります。



[設定(S)]メニューの[クライアント機能設定(F)]で、クライアント上にログファイルを作成するようくに設定されていない場合、クライアントはログを収集していません。その場合、転送はエラーにならないことに注意してください。

クライアント上に作成される各ログファイル名は固定です。別々のクライアントから同じディレクトリに転送を行いますと、ログファイルが上書きされてしまいます。指定されたディレクトリにファイルが存在する場合は、その旨をメッセージ表示しますので、上書きしたくない時は、ディレクトリ名を設定し直してください。

ファイル転送時、データビューアークライアント間の通信は、TCP/IPを使用しています。そのため、クライアント名をIPアドレスに変換できる環境でなければファイル転送を行うことができません。クライアント名をIPアドレスに変換できない場合、「転送先システムのホスト名が設定されていません。」と、メッセージを表示して、ファイル転送は異常終了します。クライアント名をIPアドレスに変換可能とするためには、クライアント名を「HOSTS」ファイルに登録します。

- 「ツール」・「プロセス監視」

プロセスビューアを起動します。プロセスビューアについては、「12.プロセス監視」を参照してください。

- 「ツール」・「WSFT」

WSFTを起動します。WSFTについては、「11.WSFT」を参照してください。

6.2.6 電源メニュー



● 「電源」・「電源投入」

「電源投入確認」ダイアログボックスを表示します。<OK>ボタンが押された場合は、クライアントへ電源投入を指示します。クライアントへの指示は CM マネージャを経由して行います。通信障害等によって CM マネージャへの要求が失敗した場合は、エラーメッセージを表示しますが、実際にクライアントの電源投入が成功したか失敗したかについては、データビューアでは表示しません。[ツール]メニューの[リモートコントロール]コマンドで、クライアントが起動しているかどうか確認することができます。また、クライアントの死活監視を行う設定になつていれば、統合ビューアで確認することができます。

● 「電源」・「電源切断」

「電源切断」ダイアログボックスを表示します。



実行モードを選択して OK ボタンを押すと、クライアントへ電源切断を指示します。クライアントへの指示は CM マネージャを経由して行います。通信障害等によって CM マネージャへの要求が失敗した場合は、エラーメッセージを表示しますが、実際にクライアントの電源切断が成功したか失敗したかについては、データビューアでは表示しません。クライアントの死活監視を行

う設定になっていれば、統合ビューアで確認することができます。

実行モードには以下の種別があります。

○強制

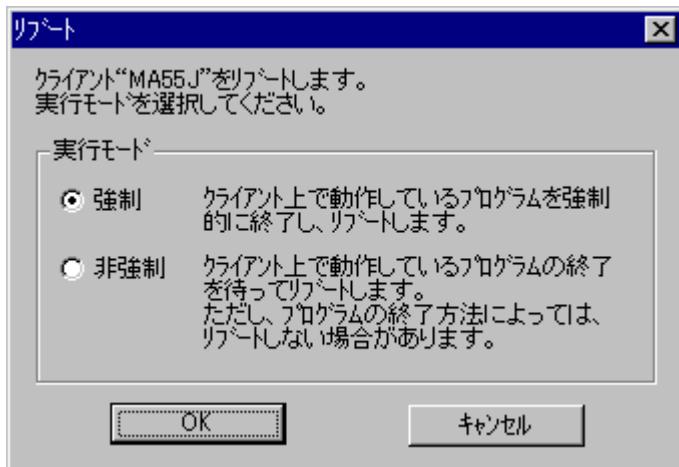
クライアント上で動作しているプログラムを強制的に終了させ、電源切断します。編集中の文書等が開かれても、その文書は保存されずに閉じられますのでご注意ください。

○非強制

クライアント上で動作しているプログラムに終了を指示し、それらのプログラムの終了を待つて電源切断します。編集中の文書等が開かれている場合は、通常、その文書等の保存を促すメッセージが表示されます。クライアント上で実行されているプログラムの終了を拒否した場合は、電源切断しません。

● 「電源」・「リブート」

「リブート」ダイアログボックスを表示します。



実行モードを選択して OK ボタンを押すと、クライアントへリブートを指示します。クライアントへの指示は CM マネージャを経由して行います。通信障害等によって CM マネージャへの要求が失敗した場合は、エラーメッセージを表示しますが、実際にクライアントのリブートが成功したか失敗したかについては、データビューアでは表示しません。「ツール」メニューの「リモートコントロール」コマンドで、クライアントが起動しているかどうか確認することができます。実行モードには以下の種別があります。

○強制

クライアント上で動作しているプログラムを強制的に終了させ、リブートします。編集中の文書等が開かれても、その文書は保存されずに閉じられますのでご注意ください。

○非強制

クライアント上で動作しているプログラムに終了を指示し、それらのプログラムの終了を待つてリブートします。編集中の文書等が開かれている場合は、通常、その文書等の保存を促すメッセージが表示されます。クライアント上で実行されているプログラムの終了を拒否した場合

は、リブートしません。

● 「電源」・「サスペンド」

サスペンド確認ダイアログボックスを表示します。OK ボタンを押すと、クライアントへサスペンドを指示します。クライアントへの指示は CM マネージャを経由して行います。通信障害等によって CM マネージャへの要求が失敗した場合は、エラーメッセージを表示しますが、実際にクライアントのサスペンドが成功したか失敗したかについては、データビューアでは表示しません。サスペンド状態のクライアントをリジュームさせるには、「電源」メニューの「電源投入」コマンドを実行してください。

● 「電源」・「ログオフ」

「ログオフ」ダイアログボックスを表示します。



実行モードを選択して OK ボタンを押すと、クライアントへログオフを指示します。クライアントへの指示は CM マネージャを経由して行います。通信障害等によって CM マネージャへの要求が失敗した場合は、エラーメッセージを表示しますが、実際にクライアントのログオフが成功したか失敗したかについては、データビューアでは表示しません。「ツール」メニューの「リモートコントロール」コマンドで確認することができます。

実行モードには以下の種別があります。

○強制

クライアント上で動作しているプログラムを強制的に終了させ、ログオフします。編集中の文書等が開かれている場合、その文書は保存されずに閉じられますのでご注意ください。

○非強制

クライアント上で動作しているプログラムに終了を指示し、それらのプログラムの終了を待つてログオフします。編集中の文書等が開かれている場合は、通常、その文書等の保存を促すメッセージが表示されます。クライアント上で実行されているプログラムの終了を拒否した場合は、ログオフしません。

● 「電源」・「OSA II」・「電源投入」

OFF state Alert II がオペレーティングシステムのハングアップを検出し、OFF state Alert

II の機能で電源切断を行った場合に、電源投入を行う事ができます。

- 「電源」・「OSA II」・「電源切断」

OFF state Alert II がオペレーティングシステムのハングアップを検出した場合に、電源切断を行う事ができます。

- 「電源」・「OSA II」・「リブート」

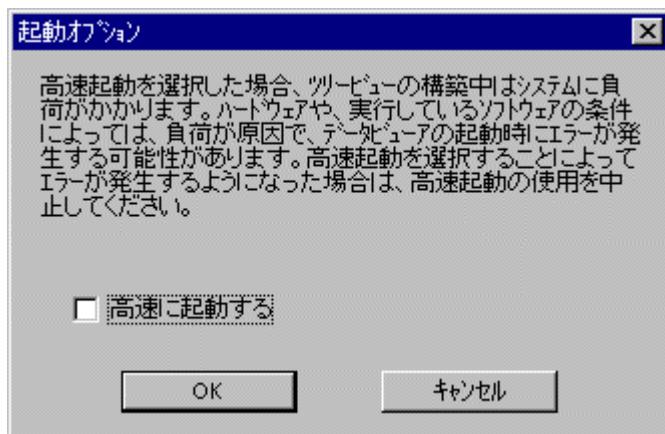
OFF state Alert II がオペレーティングシステムのハングアップを検出した場合に、リスタートさせる事ができます。

6.2.7 オプションメニュー



● 「オプション」・「起動」

「起動オプション」ダイアログボックスを開き、データビューアの起動方法を設定します。データビューアを高速に起動する場合は、「高速に起動する」チェックボックスをチェックしてください。次回のデータビューア起動時より有効になります。



注意：高速起動を選択した場合、CMデータビューア起動中およびツリーの再構築中はシステムに負荷がかかります。ハードウェアや、同時に実行しているソフトウェアの状態によっては、負荷が原因によるエラーが発生する可能性があります。高速起動を選択することにより、CMデータビューアの起動中、またはツリーの再構築中にエラーが発生するようになった場合は、高速起動の使用を中止してください。

CMデータビューアの起動時間短縮は、CMデータビューアカスタマイズツールを使用して、不要な情報を表示しないように設定することでも実現できます。CMデータビューアカスタマイズツールの操作方法については、「6.5 CMデータビューアカスタマイズツール」を参照してください。

6.2.8 ヘルプメニュー



- 「ヘルプ」・「マネージャ情報」

現在、接続しているマネージャ名を表示します。

- 「ヘルプ」・「トピックの検索」

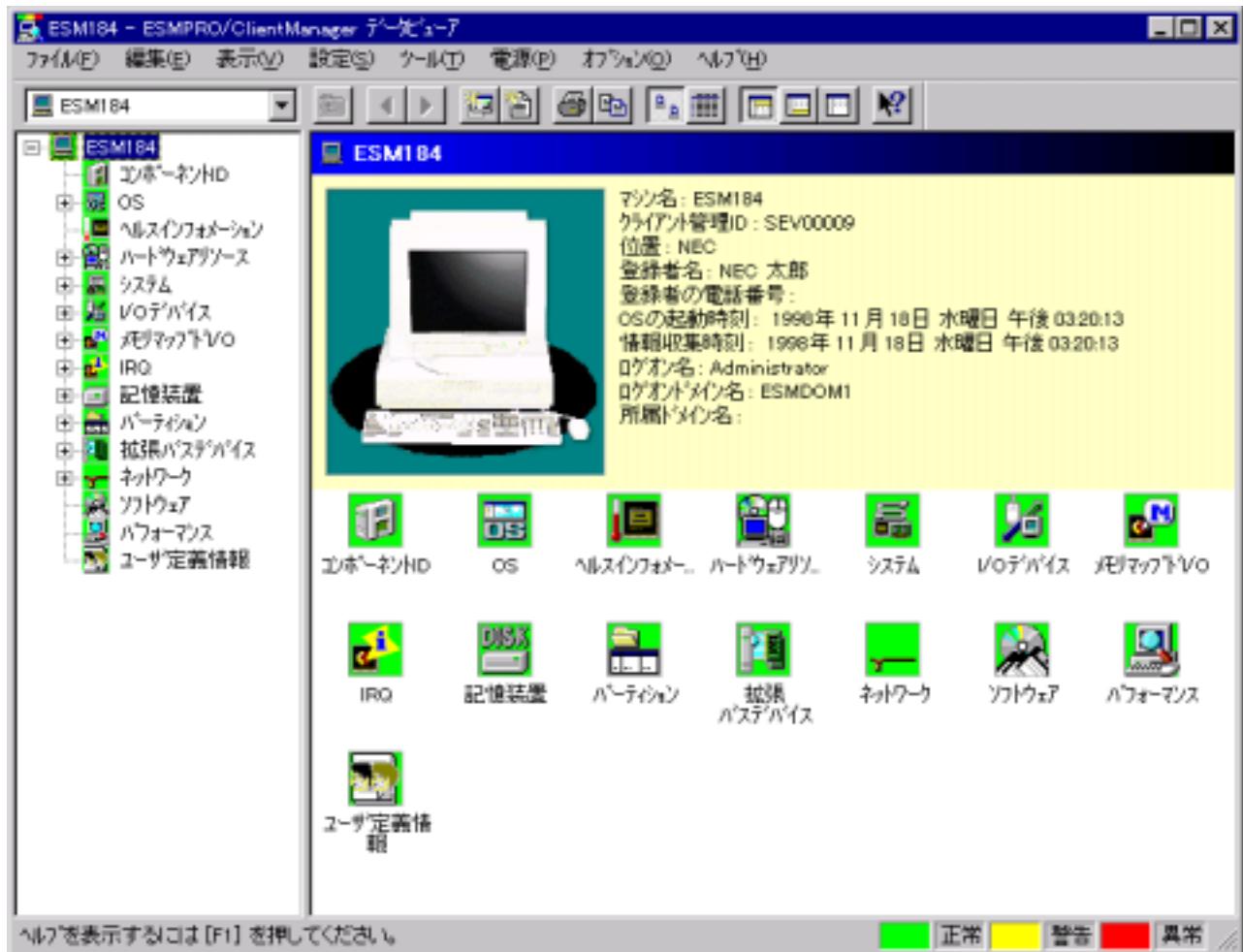
データビューアのヘルプファイルの目次を開きます。

- 「ヘルプ」・「バージョン情報」

データビューアのバージョン情報を表示します。

6.3 クライアント情報

ツリー上のフォルダを選択することにより、クライアントのハードウェア、ソフトウェアおよび性能情報に関する詳細画面を表示します。



* コンポーネントIDフォルダ

コンポーネントIDフォルダでは、[メーカー]、[モデル名]、[形状]、[バージョン]のチェックができます。

* OSフォルダ

OSフォルダでは、[OS名]のチェックができます。

* ヘルスインフォメーションフォルダ

ヘルスインフォメーションフォルダでは、[温度]、[電源供給]、[ファン]のチェックができます。

* ハードウェアリソースフォルダ

ハードウェアリソースフォルダでは、[ハードウェアリソース]のチェックができます。

*** システムフォルダ**

システムフォルダでは、[CPU]、[キャッシュ]、[メモリ]、[スロット]、[BIOS]、[エンクロージャ]のチェックができます。

*** I/Oデバイスフォルダ**

I/Oデバイスフォルダでは、クライアントに接続されているI/Oデバイスのチェックができます。

*** メモリマップドI/Oフォルダ**

メモリマップドI/Oフォルダでは、メモリマップドI/O情報のチェックができます。

*** IRQフォルダ**

IRQフォルダでは、IRQ情報のチェックができます。

*** 記憶装置フォルダ**

記憶装置フォルダでは、クライアントに接続されている記憶装置のチェックができます。

*** パーティションフォルダ**

パーティションフォルダでは、[空き容量情報]、[パーティション]、[ドライブ情報]のチェックができます。

*** 拡張バスデバイスフォルダ**

拡張バスデバイスフォルダでは、クライアントに搭載されている拡張ボードに関する情報のチェックができます。

*** ネットワークフォルダ**

ネットワークフォルダでは、ネットワークボードやDNS情報などのチェックができます。

*** ソフトウェアフォルダ**

ソフトウェアフォルダでは、インストールされているソフトウェアの情報をチェックできます。

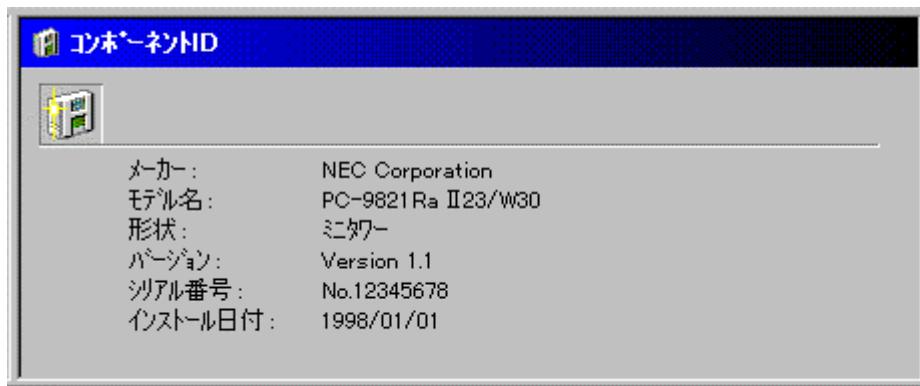
*** パフォーマンスフォルダ**

パフォーマンスフォルダでは、メモリやCPUなどのパフォーマンスの情報をチェックできます。

注意：これらの情報は、メーカ・機種・環境によって表示されない場合があります。

6.3.1 コンポーネントID

コンポーネントID画面では以下のような情報を表示します。



* メーカー

システムのメーカーを表示します。

* モデル名

システムのプロダクト名やモデル名を表示します。

* 形状

筐体の形状を表示します。

* バージョン

システムのバージョンを表示します。

* シリアル番号

システムのシリアル番号を表示します。

* インストール日付

コンポーネントがインストールされた日付を表示します。

6.3.2 OS フォルダ

OSフォルダを選択すると選択されたクライアントのOS情報を見ることができます。

(1) OS名画面

OS名画面では以下のような情報を表示します。



*** OS名**

OSの名称を表示します。

*** バージョン**

OSのバージョンを表示します。

*** プライマリOS**

プライマリ（主要）なOSかどうかを表示します。

*** 起動デバイスタイプ**

OSが起動したデバイスのタイプを表示します。

*** 起動デバイスディスク番号**

OSが起動したデバイスのディスク番号を表示します。

*** 起動パーティション番号**

OSが起動したパーティション番号を表示します。

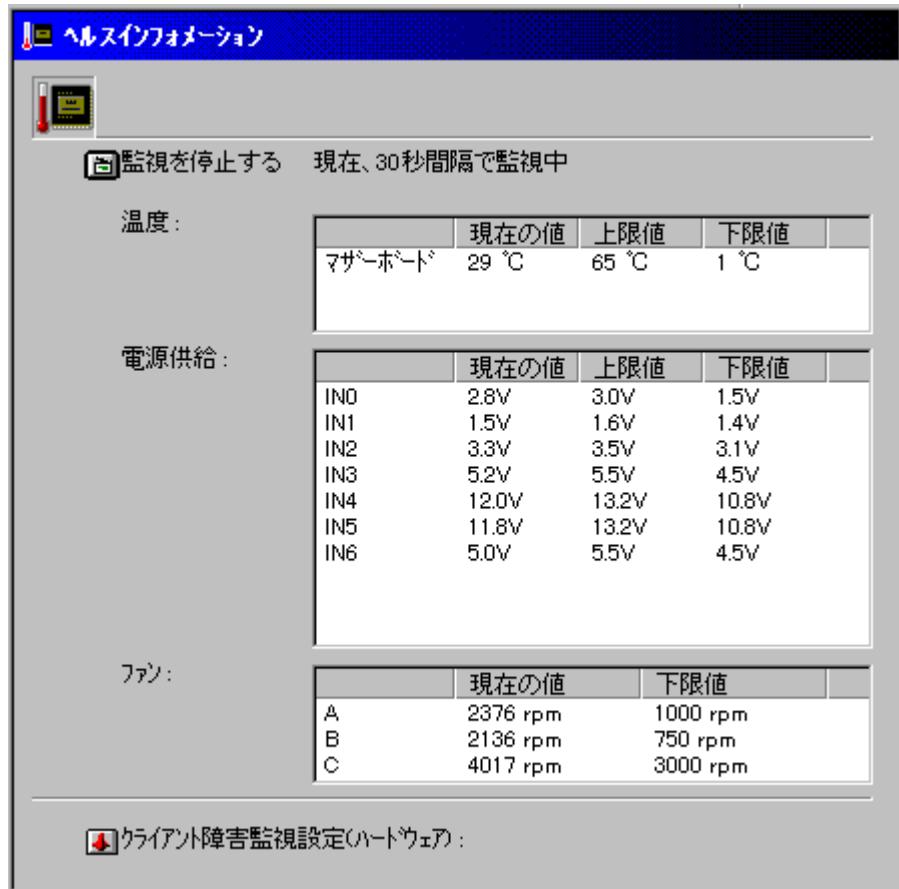
*** 説明**

詳細な説明を表示します。

6.3.3 ヘルスインフォメーション

ヘルスインフォメーションについての情報を表示します。

ヘルスインフォメーション画面では以下のような情報を表示します。



* 監視開始／停止ボタン

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。

* 監視間隔設定コンボボックス

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* 温度リストボックス

温度の現在値・上限値・下限値を、摂氏で表示します。何の温度を表示するかは、クライアントにより異なります。

* 電源リストボックス

電源の供給状態を電源の種別ごとに、上限値・下限値・現在値に分けて一覧表示します。

* ファンリストボックス

ファンの回転数を現在値と下限値に分けてファンごとに表示します。

* クライアント障害監視設定（ハードウェア）ボタン

「クライアント障害監視設定（ハードウェア）」ダイアログボックスを開き、クライアント障害監視の項目の設定を行います。「クライアント障害監視設定（ハードウェア）」ダイアログボックスについては、「6.2.4. 設定メニュー」を参照してください。

6.3.4 ハードウェアリソースフォルダ

ハードウェアリソースフォルダを選択すると選択されたクライアントのハードウェアリソース情報を見ることができます。

(1) ハードウェアリソース

ハードウェアリソースについての情報を表示します。

ハードウェアリソース画面では以下のようないい情報を表示します。



* デバイス種別

デバイスの種別を表示します。

* デバイス説明

デバイスの説明を表示します。

6.3.5 システムフォルダ

システムフォルダを選択すると選択されたクライアントのシステム情報を見ることができます。システムフォルダには9つの画面があります。フォルダを選択して各画面にアクセスします。

- 1) CPUインフォメーション画面
- 2) プロセッサ画面
- 3) システムキャッシュ画面
- 4) メモリインフォメーション画面
- 5) 物理メモリ画面
- 6) メモリサイズ画面
- 7) システムスロット画面

- 8) システムBIOS画面
- 9) エンクロージャ画面

(1) CPUインフォメーション画面

CPU情報について表示します。

CPU情報画面では以下のような情報を表示します。



* CPU個数

CPUの個数を表示します。

* 監視開始／停止ボタン

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。ただし、クライアントのOSがWindows 95、98の場合は、CPU負荷率の監視は行えません。

* 監視間隔設定コンボボックス

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* CPU負荷率ボタン

グラフビューアを起動し、CPU負荷率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* CPU負荷率バー

監視中は、最新のCPU負荷率をパーセンテージで表示します。監視を行っている間だけ表示します。

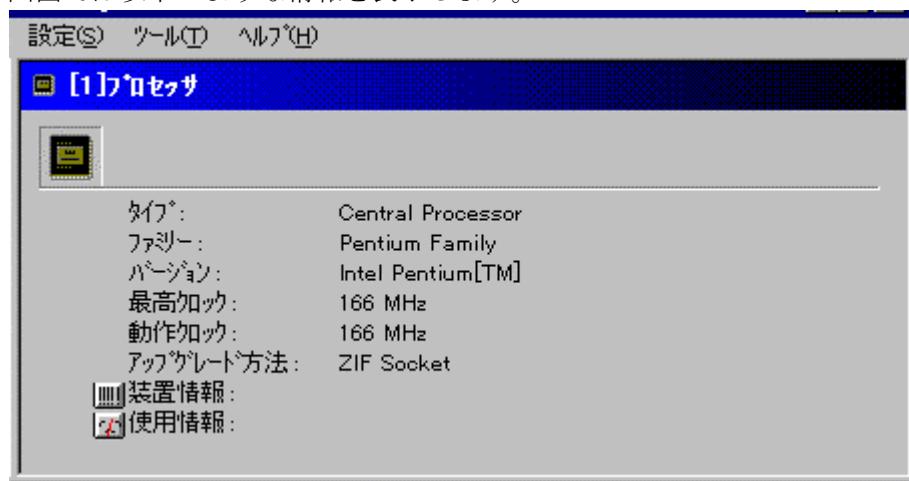
* クライアント障害監視設定（性能）ボタン

「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスを開き、クライアント障害監視の設定を行います。「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスについては、「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

(2) プロセッサ画面

プロセッサについての情報を表示します。

プロセッサ画面では以下のような情報を表示します。



* タイプ

プロセッサのタイプを表示します。Central Processor、Math Processor、DSP Processor、Video Processorなどがあります。

* ファミリー

プロセッサが所属するファミリーを表示します。

* バージョン

プロセッサのバージョン情報を表示します。

* 最高クロック

プロセッサの稼動する最高クロック数を表示します。単位はMHz (megahertz) です。

* 動作クロック

プロセッサの現在稼動しているクロック数を表示します。単位はMHz (megahertz) です。

* アップグレード方法

プロセッサをアップグレードする際の方法を表示します。

* 装置情報ボタン

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

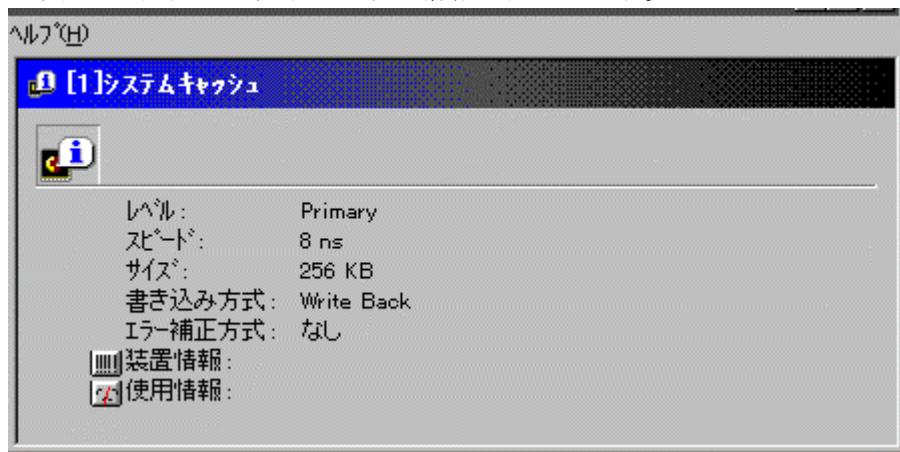
* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(3) システムキャッシング画面

システムキャッシングについての情報を表示します。

システムキャッシング画面では以下のようないい情報を表示します。



* レベル

キャッシングの1次、2次などのレベルを表示します。

* スピード

キャッシングのスピードを表示します。単位はns (nanosecond) です。

* サイズ

キャッシングサイズを表示します。単位はKバイトです。

* 書き込み方式

Write Back、Write Throughなどのキャッシングの書き込み方式を表示します。

* エラー補正方式

キャッシングがサポートしているエラー補正方式を表示します。

* 装置情報ボタン

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

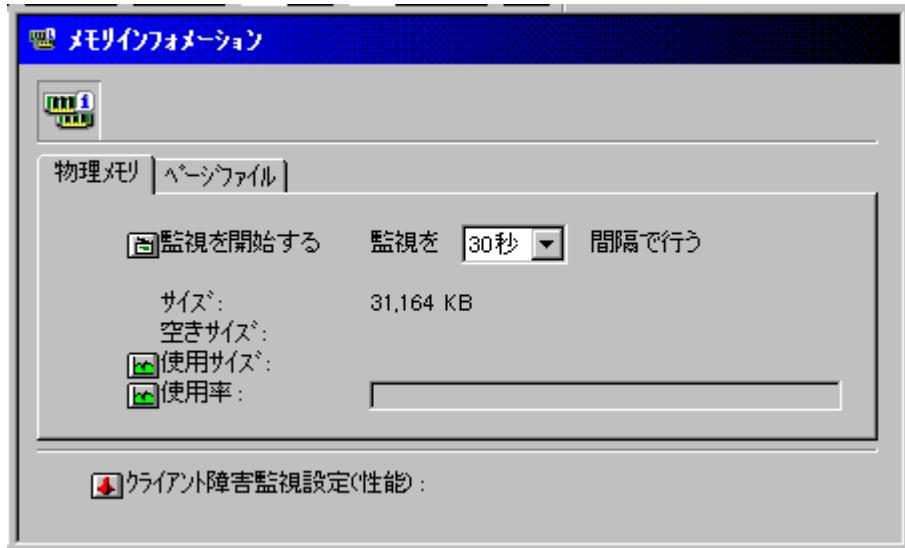
* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(4) メモリインフォメーション画面

メモリ情報について表示します。

メモリ情報画面では以下のようない情報を表示します。



* メモリタブ

表示するメモリ情報の種類を物理メモリ・ページファイルの中から選択します。

* 監視開始／停止ボタン



現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。

* 監視間隔設定コンボボックス

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* サイズ

現在選択されているメモリ全体のサイズを表示します。単位はKバイトです。

* 空きサイズ

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの空きサイズを表示します。単位はKバイトです。監視を行っている間だけ表示します。

* 使用サイズボタン



グラフビューアを起動し、使用サイズを表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* 使用サイズ

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの使用サイズを表示します。単位はKバイトです。監視を行っている間だけ表示します。

* 使用率ボタン

グラフビューアを起動し、使用率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* 使用率バー

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの使用率をパーセンテージで表示します。監視を行っている間だけ表示します。

* クライアント障害監視設定（性能）ボタン

「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスを開き、クライアント障害監視の設定を行います。「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスについては、「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

(5) 物理メモリ画面

物理メモリについての情報を表示します。

物理メモリ画面では以下のようないい情報を表示します。



* 装着位置

システムボードやアドオンボード上のメモリの装着位置を表示します。

* 開始アドレス・終了アドレス

メモリの開始アドレスと終了アドレスを一覧表示します。

* 使用用途

メモリの使用用途を表示します。システムメモリ、ビデオメモリ、フラッシュメモリ、Non Volatile RAMなどがあります。

*** 最大メモリ容量**

最大メモリ容量を表示します。単位はKバイトです。

*** SIMMスロット数**

SIMMのスロット数を表示します。

*** 使用中SIMMスロット数**

既に使用しているSIMMのスロット数を表示します。

*** メモリ速度**

メモリの読み書きに対する速度を表示します。単位はns (nanosecond) です。

*** エラー補正方式**

メモリの読み書き時のエラー補正方式を表示します。

*** 装置情報ボタン** 

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

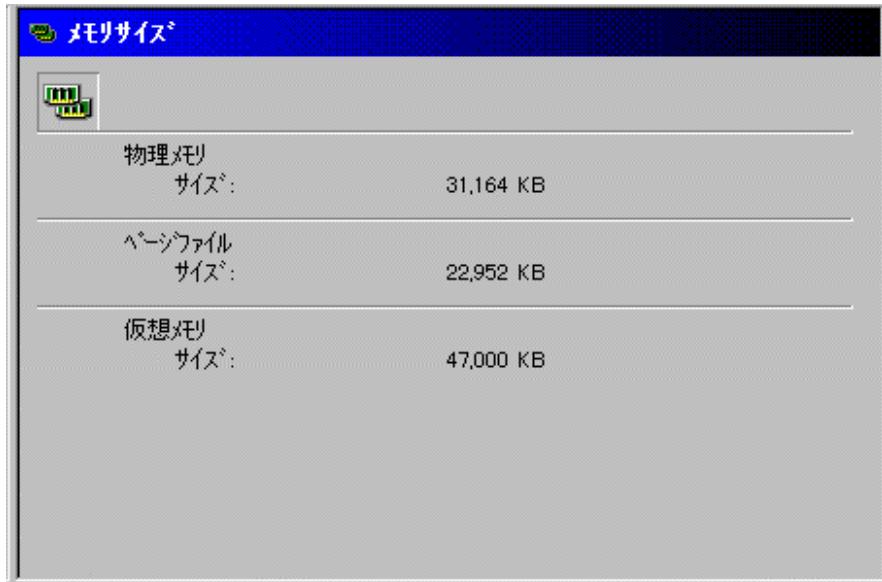
*** 使用情報ボタン** 

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(6) メモリサイズ画面

メモリサイズについての情報を表示します。

メモリサイズ画面では以下のようないい情報を表示します。



[物理メモリ]

* サイズ

物理メモリサイズを表示します。単位はKバイトです。

[ページファイル]

* サイズ

ページファイルのサイズを表示します。単位はKバイトです。

[仮想メモリ]

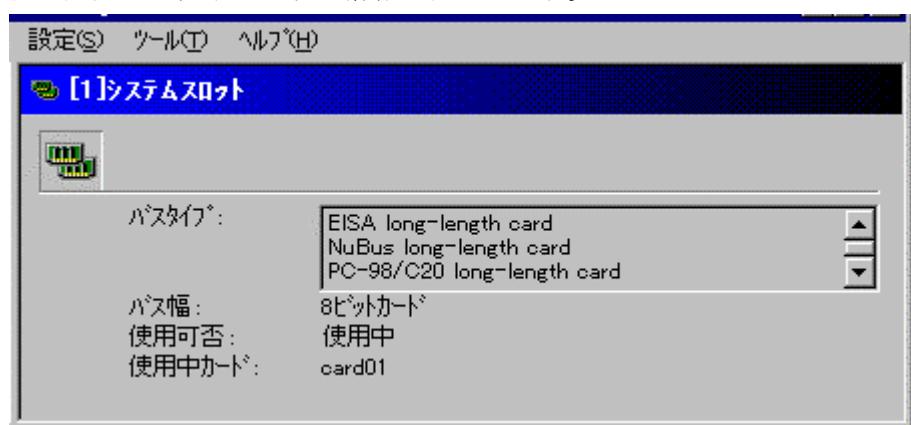
* サイズ

仮想メモリのサイズを表示します。単位はKバイトです。

(7) システムスロット画面

システムスロットについての情報を表示します。

システムスロット画面では以下のような情報を表示します。



* バスタイプ

スロットの対応バスタイプを表示します。

* バス幅

スロットのバス幅を表示します。

* 使用可否

スロットが使用されているかどうかを表示します。

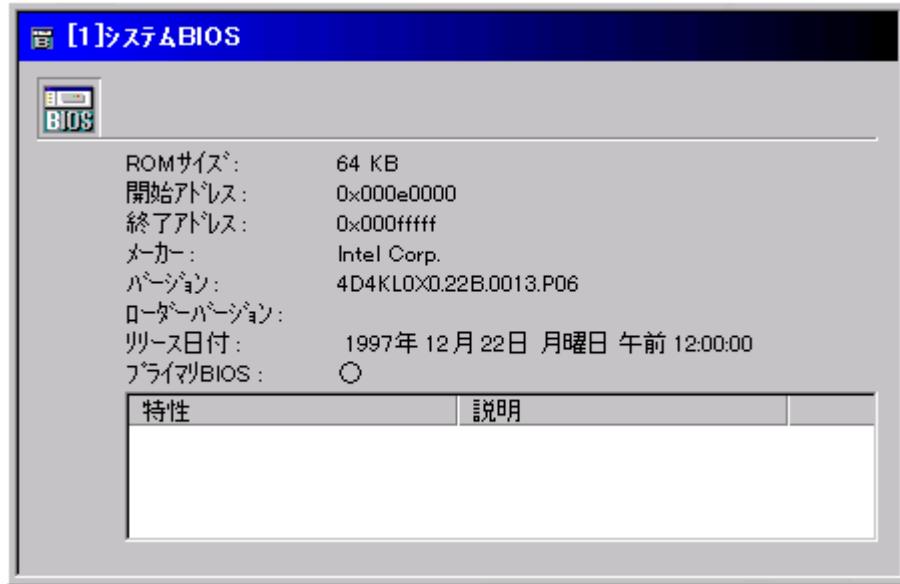
* 使用中カード

使用しているカードの説明を表示します。

(8) システムBIOS画面

システムBIOSについての情報を表示します。

システムBIOS画面では以下のような情報を表示します。



* ROMサイズ

システムBIOSのROMサイズを表示します。単位はKバイトです。

* 開始アドレス

BIOSの開始アドレスを表示します。

* 終了アドレス

BIOSの終了アドレスを表示します。

* メーカー

システムBIOSの製造会社を表示します。

* バージョン

システムBIOSのバージョンを表示します。

* ローダーバージョン

システムBIOSをロードするプログラムのバージョンを表示します。

* リリース日付

システムBIOSがリリースされた日付を表示します。

* プライマリBIOS

プライマリ（主要）なBIOSかどうかを表示します。

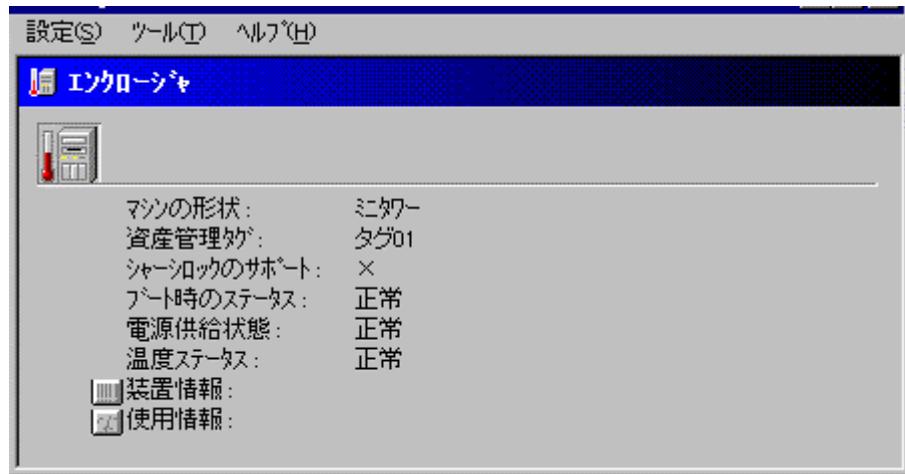
* 特性・説明

システムBIOSが持つ特性と、その特性の詳細な説明を一覧表示します。

(9) エンクロージャ画面

エンクロージャについての情報を表示します。

エンクロージャ画面では以下のような情報を表示します。



* マシンの形状

マシンの筐体の形状を表示します。

* 資産管理タグ

資産管理タグを表示します。

* シャーシロックのサポート

シャーシロックがサポートされているかどうかを表示します。

* ブート時のステータス

ブートした時のシステムの状態を表示します。

* 電源供給状態

システムの電源供給状態を表示します。

* 温度ステータス

システムの温度状態を表示します。

* 装置情報ボタン

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

6.3.6 I/O デバイスフォルダ

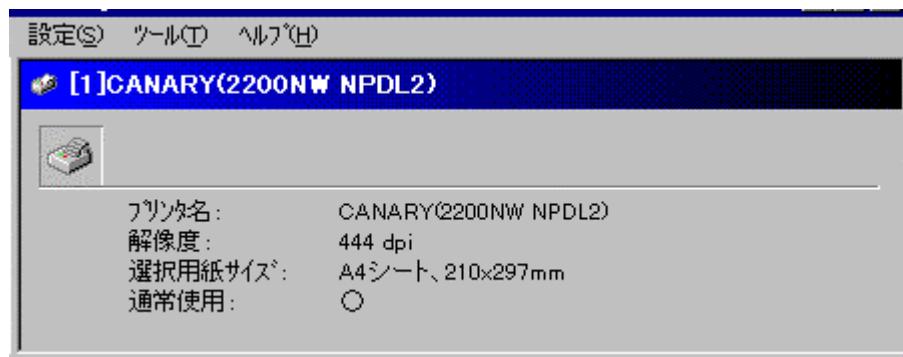
I/Oデバイスフォルダを選択すると選択されたクライアントのI/Oデバイス情報を見ることができます。I/Oデバイスフォルダには8つの画面があります。フォルダを選択すると、そのデバイスの情報を情報ビューに表示します。

- 1) プリンタ画面
- 2) シリアルポート画面
- 3) パラレルポート画面
- 4) キーボード画面
- 5) ビデオ画面
- 6) ビデオBIOS画面
- 7) ディスプレイ画面
- 8) ポインティングデバイス画面

(1) プリンタ画面

プリンタについての情報を表示します。

プリンタ画面では以下のような情報を表示します。



* プリンタ名

プリンタ名を表示します。

* 解像度

プリンタの解像度を表示します。単位はdpi (dot per inch) です。

* 選択用紙サイズ

選択用紙サイズを表示します。

* 通常使用

通常使用しているプリンタか否かを表示します。

(2) シリアルポート画面

シリアルポートについての情報を表示します。

シリアルポート画面では以下のような情報を表示します。



* **ポート名**

ポート名を表示します。

* **I/Oアドレス**

I/Oアドレスを表示します。

* **IRQ**

IRQ番号を表示します。

* **コネクタタイプ**

コネクタタイプを表示します。

* **最高通信速度**

最高通信速度を表示します。単位はbps (bit per second) です。

* **能力**

能力 (互換性) を表示します。

* **使用情報ボタン** 

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(3) パラレルポート画面

パラレルポートについての情報を表示します。

パラレルポート画面では以下のようないい情報を表示します。



* ポート名

ポート名を表示します。

* I/Oアドレス

I/Oアドレスを表示します。

* IRQ

IRQ番号を表示します。

* コネクタタイプ

コネクタタイプを表示します。

* ピン出力

ピン出力を表示します。

* DMA

DMAをサポートしているか否かを表示します。

* 能力

能力を表示します。

* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(4) キーボード画面

キーボードについての情報を表示します。

キーボード画面では以下のような情報を表示します。



* **レイアウト**

キーボードレイアウトを表示します。

* **タイプ**

キーボードタイプを表示します。

* **リピート開始時間**

キーボードのキーを押し続けた時、キーが繰り返し始めるまでの経過時間を表示します。単位はms (millisecond) です。

* **リピート速度**

キーボードのキーを押し続けた時、同じ文字を繰り返し表示するスピードを表示します。単位はCPS (character per second) です。

* **コネクタタイプ**

コネクタタイプを表示します。

* **装置情報ボタン**

「装置情報」ダイアログボックスを開き、装置情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

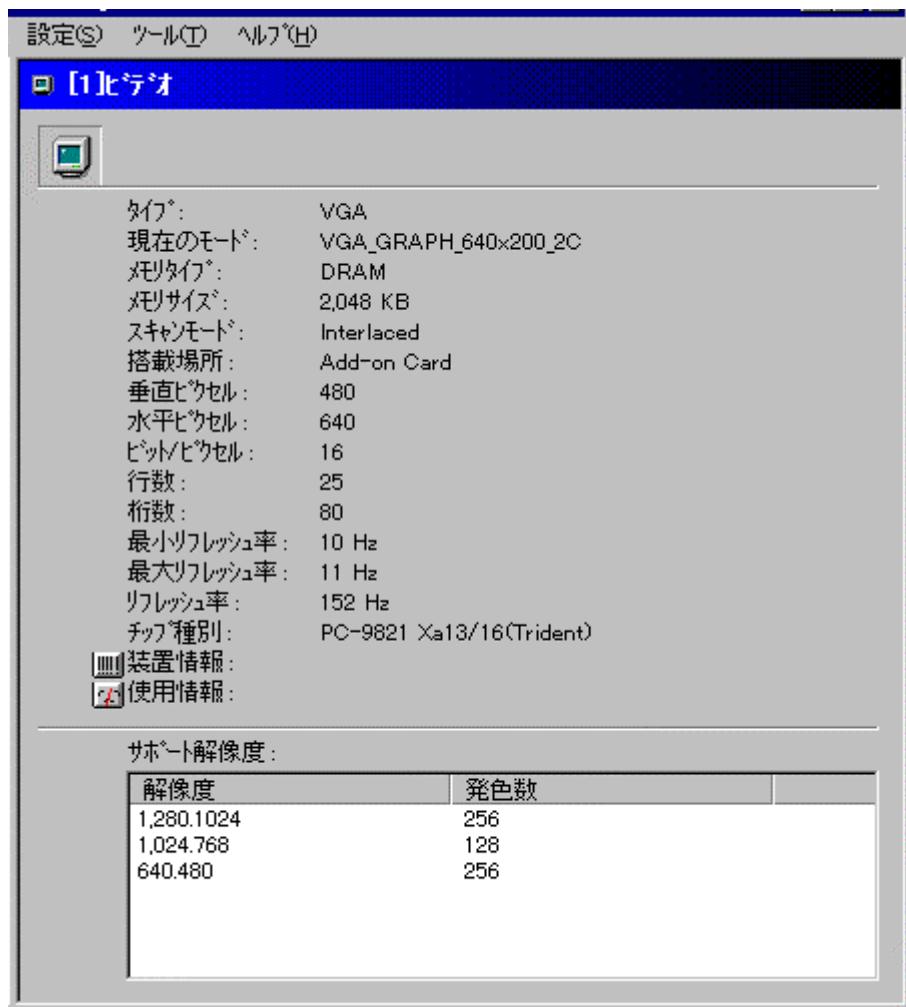
* **使用情報ボタン**

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

(5) ビデオ画面

ビデオについての情報を表示します。

ビデオ画面では以下のような情報を表示します。



* タイプ

ビデオサブシステムのアーキテクチャを表示します。

* 現在のモード

現在のビデオモードを表示します。

* メモリタイプ

ビデオメモリアダプタのタイプを表示します。VRAM、DRAM、SRAMなどがあります。

* メモリサイズ

ビデオメモリアダプタのメモリサイズを表示します。単位はKバイトです。

* スキャンモード

スキャンモードを表示します。

* 搭載場所

ビデオコントローラの搭載場所を表示します。

* 垂直ピクセル

垂直方向のピクセル数を表示します。

* **水平ピクセル**

水平方向のピクセル数を表示します。

* **ビット/ピクセル**

1ピクセル中のビット数を表示します。

* **行数**

キャラクタモードでの行数を表示します。

* **桁数**

キャラクタモードでの桁数を表示します。

* **最小リフレッシュ率**

リフレッシュ率の最小値を表示します。単位はHz (hertz) です。

* **最大リフレッシュ率**

リフレッシュ率の最大値を表示します。単位はHz (hertz) です。

* **リフレッシュ率**

現在のリフレッシュ率を表示します。単位はHz (hertz) です。

* **チップ種別**

ビデオチップ種別を表示します。

* **装置情報ボタン**



「装置情報」ダイアログボックスを開き、装置情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

* **使用情報ボタン**



「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

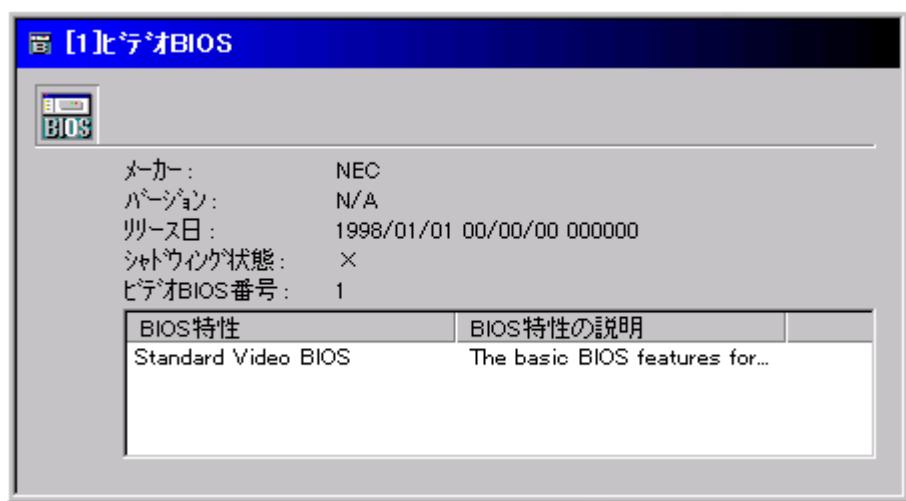
* **サポート解像度**

サポートしている全解像度、全発色数をリスト表示します。

(6) ビデオBIOS画面

ビデオBIOSについての情報を表示します。

ビデオBIOS画面では以下のような情報を表示します。



* **メーカー**

メーカーを表示します。

* **バージョン**

バージョンを表示します。

* **リリース日**

リリース日を表示します。

* **シャドウイング状態**

シャドウイング状態を表示します。

* **ビデオBIOS番号**

ビデオBIOS番号を表示します。

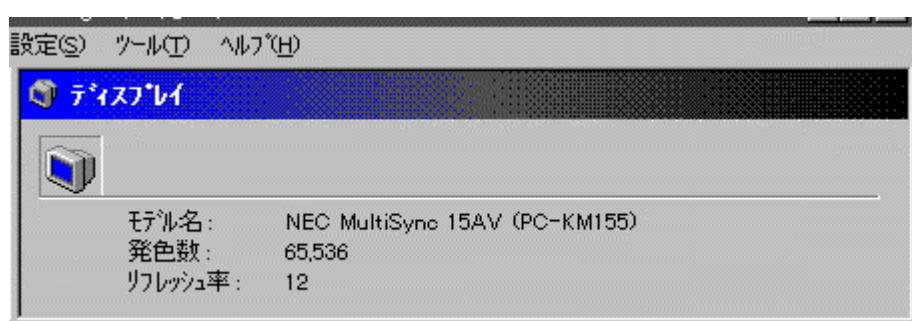
* **BIOS特性・BIOS特性の説明**

ビデオBIOS特性と、ビデオBIOS特性に関する説明を一覧表示します。

(7) ディスプレイ画面

ディスプレイについての情報を表示します。

ディスプレイ画面では以下のような情報を表示します。



* モデル名

ディスプレイモデル名を表示します。

* 発色数

現在の発色数を表示します。

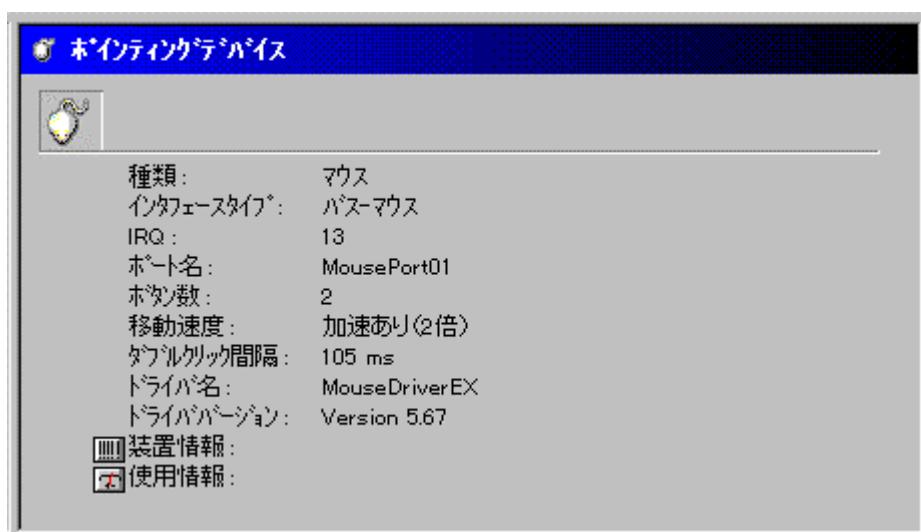
* リフレッシュ率

現在のリフレッシュ率を表示します。

(8) ポイントティングデバイス画面

ポイントティングデバイスについての情報を表示します。

ポイントティングデバイス画面では以下のような情報を表示します。



* 種類

ポイントティングデバイスの種類を表示します。マウス、トラックボール、タッチパッド等があります。

* インタフェースタイプ

インターフェースタイプを表示します。

* IRQ

IRQ番号を表示します。

* ポート名

ポート名を表示します。

* ボタン数

ボタン数を表示します。

* 移動速度

移動速度を加速するか否かを表示します。

* **ダブルクリック間隔**

ダブルクリックの間隔を表示します。単位はms (millisecond) です。この間隔内に2回クリックした場合、ダブルクリックとみなされます。

* **ドライバ名**

マウスドライバの名称を表示します。

* **ドライババージョン**

マウスドライバのバージョンを表示します。

* **装置情報ボタン** 

「装置情報」ダイアログボックスを開き、装置情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

* **使用情報ボタン** 

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

6.3.7 メモリマップドI/O フォルダ

メモリマップドI/Oフォルダを選択すると選択されたクライアントのメモリマップドI/O情報を見ることができます。

(1) メモリマップドI/Oインフォメーション情報

メモリマップドI/O情報について表示します。



メモリマップドI/O情報画面では以下のようないい情報を表示します。

* **論理デバイス名**

メモリマップ内の論理デバイス名を表示します。

* 開始アドレス

デバイスの開始アドレスを表示します。

* 終了アドレス

デバイスの終了アドレスを表示します。

6.3.8 IRQ フォルダ

IRQフォルダを選択すると選択されたクライアントのIRQ情報を見ることができます。

(1) IRQ画面

IRQ (割り込み要求) について表示します。

IRQ (割り込み要求) 画面では以下のような情報を表示します。



* 割り込み要求番号

割り込み要求番号を表示します。

* 使用

割り込み要求番号が使用されているかどうかを表示します。

* トリガタイプ

割り込み要求を発生させるタイプを表示します。

* トリガレベル

割り込み要求を発生させるレベルを表示します。

* 共有可否

割り込み要求が共有可能かどうかを表示します。

*** 共有中**

割込み要求が共有中かどうかを表示します。

*** 論理デバイス名**

現在、この割り込み要求番号を使用しているデバイス名を表示します。

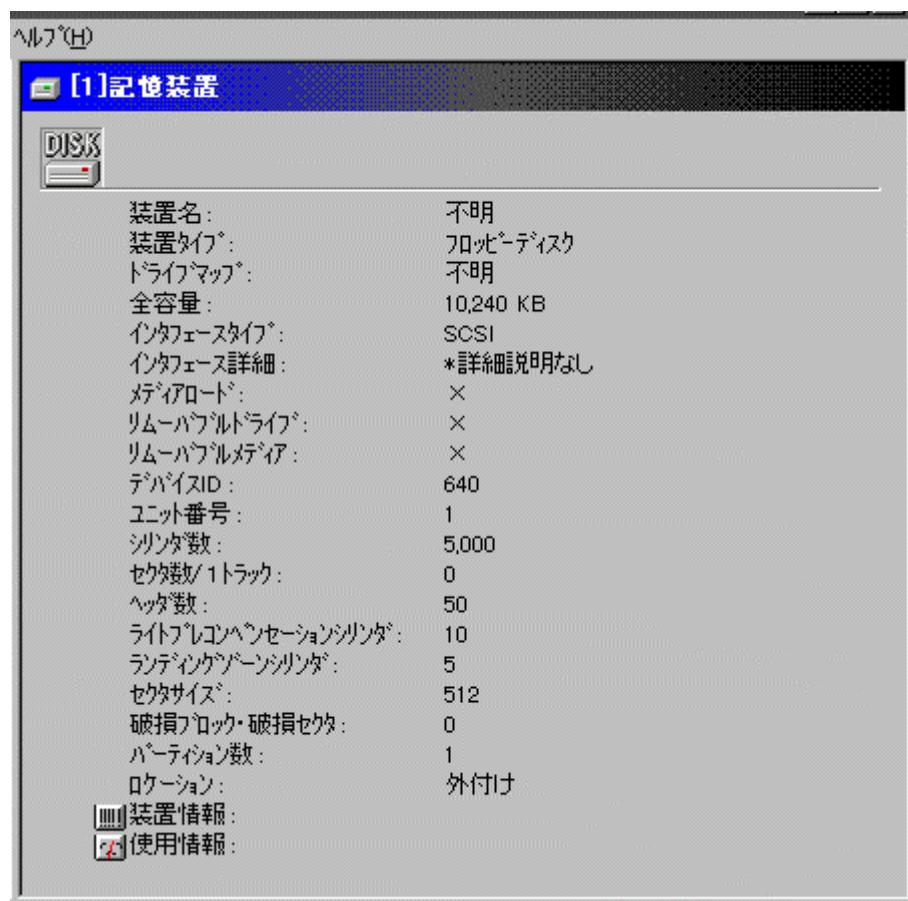
6.3.9 記憶装置

記憶装置フォルダを選択すると選択されたクライアントの記憶装置情報を見ることができます。

(1) 記憶装置画面

記憶装置についての情報を表示します。

記憶装置画面では以下のような情報を表示します。



*** 装置名**

装置の名称を表示します。

*** 装置タイプ**

装置タイプを表示します。

*** ドライブマップ**

この装置にどのドライブがマッピングされているのかを表示します。

*** 全容量**

装置の全容量を表示します。単位はKバイトです。

*** インタフェースタイプ**

装置のインターフェースのタイプを表示します。

*** インタフェース詳細**

装置のインターフェースのより詳細な説明を表示します。

*** メディアロード**

メディアがロード済みかどうかを表示します。

*** リムーバブルドライブ**

ドライブが取り外し可能かどうかを表示します。

*** リムーバブルメディア**

メディアが取り外し可能かどうかを表示します。

*** デバイスID**

SCSIアドレスを表示します。

*** ユニット番号**

ユニット番号を表示します。

*** シリンダ数**

装置のシリンダ数を表示します。

*** セクタ数／1トラック**

1トラックあたりのセクタ数を表示します。

*** ヘッダ数**

装置のヘッダ数を表示します。

*** ライトプレコンペンセーションシリンダ**

書き込み保障用のシリンダ数を表示します。

*** ランディングゾーンシリンダ**

ランディングゾーンのシリンダ数を表示します。

*** セクタサイズ**

この装置のセクタサイズを表示します。

*** 破損ブロック・破損セクタ**

破損したブロックとセクタの総合計を表示します。

* パーティション数

パーティションの数を表示します。

* ロケーション

どこに搭載されているかを表示します。

* 装置情報ボタン

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

6.3.10 パーティションフォルダ

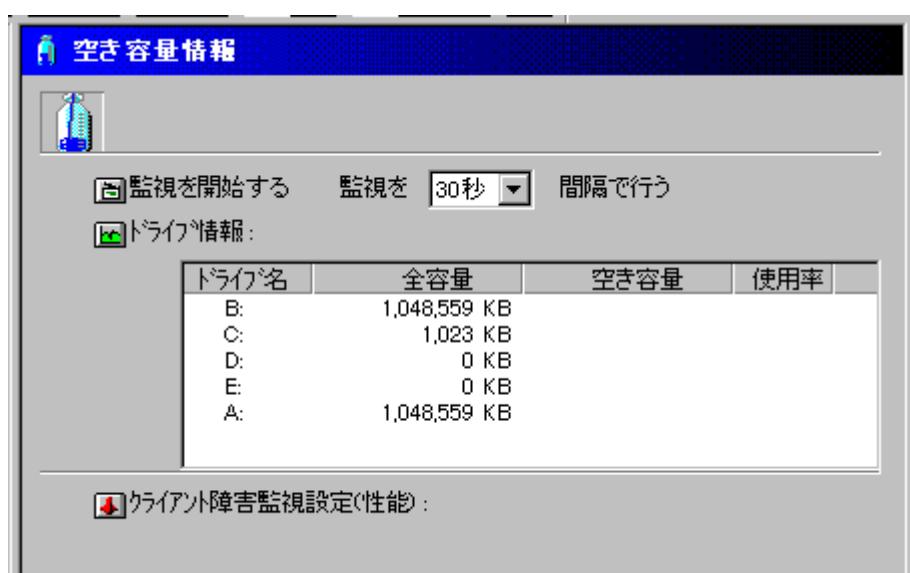
パーティションフォルダを選択すると選択されたクライアントのパーティション情報を見ることができます。パーティションフォルダには3つの画面があります。フォルダを選択すると、情報ビューに表示します。

- 1) 空き容量情報画面
- 2) パーティション画面
- 3) ドライブ情報画面

(1) 空き容量情報画面

空き容量情報について表示します。

空き容量情報画面では以下のような情報を表示します。



* 監視開始／停止ボタン

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。

* **監視間隔設定コンボボックス**

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* **ドライブ情報ボタン**

グラフビューアを起動し、選択されたドライブの使用率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* **ドライブ名**

ドライブ名を表示します。監視をしている間は、ドライブ名の左に使用率の状態を表す色を表示します。色の意味は、ステータスバーに表示されています。「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスで設定された、しきい値を基準に色が変化します。

* **全容量**

ドライブの容量を表示します。単位はKバイトです。

* **空き容量**

ドライブの空き容量を表示します。単位はKバイトです。監視している間だけ表示します。

* **使用率**

ドライブの使用率をパーセンテージで表示します。監視している間だけ表示します。

* **クライアント障害監視設定（性能）ボタン**

「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスを開き、クライアント障害監視の設定を行います。「クライアント障害監視設定（性能）」ダイアログボックスについては、「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

(2) パーティション画面

パーティションについての情報を表示します。

パーティション画面では以下のようないい情報を表示します。



* パーティション名

パーティション名を表示します。

* 全容量

パーティションの全容量を表示します。単位はKバイトです。

* ボリュームラベル

パーティションのボリュームラベルを表示します。

* ファイルシステム

パーティションのファイルシステムを表示します。

* 圧縮

パーティションが圧縮されているかどうかを表示します。

* 暗号化

パーティションが暗号化されているかどうかを表示します。

* 占有ディスク数

パーティションが占有しているディスク枚数を表示します

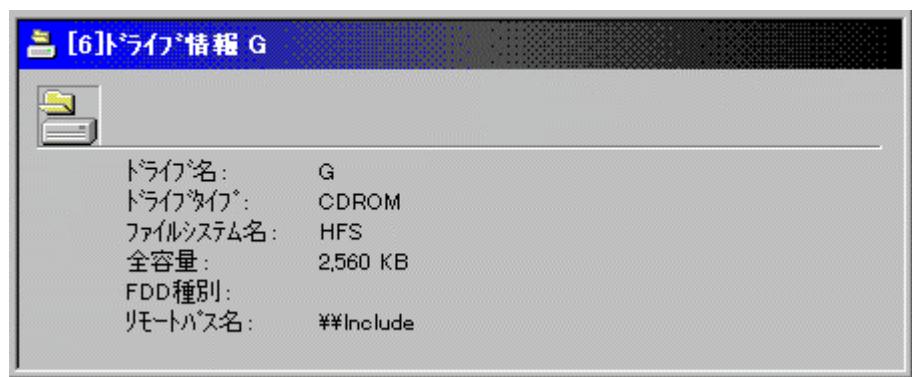
* 装置タイプ

パーティションの装置タイプを表示します。

(3) ドライブ情報画面

ドライブ情報について表示します。

ドライブ情報画面では以下のような情報を表示します。



*** ドライブ名**

ドライブ名を表示します。

*** ドライブタイプ**

ドライブの種別を表示します。

*** ファイルシステム名**

ドライブのファイルシステム名称を表示します。

*** 全容量**

ドライブの全容量を表示します。単位はKバイトです。

*** FDD種別**

ドライブのFDD種別を表示します。

*** リモートパス名**

リモートパス名を表示します。

6.3.11 拡張バスデバイスフォルダ

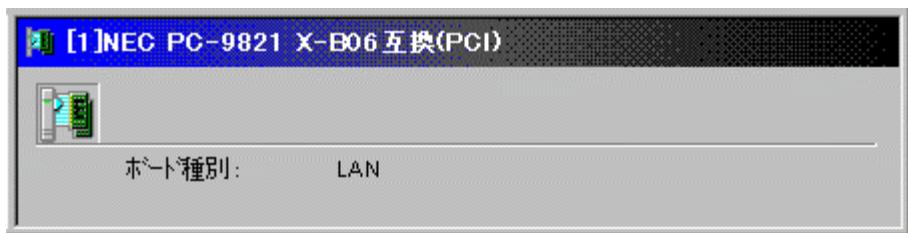
拡張バスデバイスフォルダを選択すると選択されたクライアントに実装されている拡張ボードに関する詳細情報を見ることができます。拡張バスデバイスフォルダには2つの画面があります。フォルダを選択すると、情報ビューに表示します。

- 1) ボード画面
- 2) スロット画面

(1) ボード画面

拡張バスデバイスに装着されているボードの情報について表示します。

拡張バスデバイスのボード画面では以下のような情報を表示します。



* ボード名 (タイトル)

現在の拡張バスデバイスに装着されているボード名称を表示します。

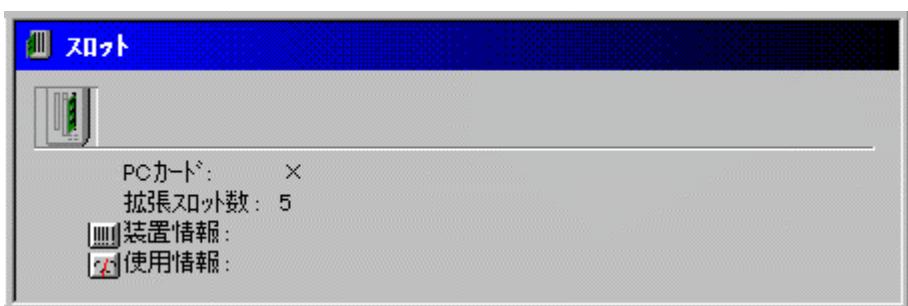
* ボード種別

現在の拡張バスデバイスに装着されているボードの種別を表示します。

(2) スロット画面

スロットについての情報を表示します。

スロット画面では以下のような情報を表示します。



* PCカード

PCカードのスロットの有無を表示します。

* 拡張スロット数

拡張スロット数を表示します。

* 装置情報ボタン

「装置情報」ダイアログボックスを開き、この装置の情報を表示します。「装置情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

* 使用情報ボタン

「使用情報」ダイアログボックスを開き、使用状況情報を表示します。「使用情報」ダイアログボックスについては、「6.3.16 共通ダイアログボックス」を参照してください。

6.3.12 ネットワークフォルダ

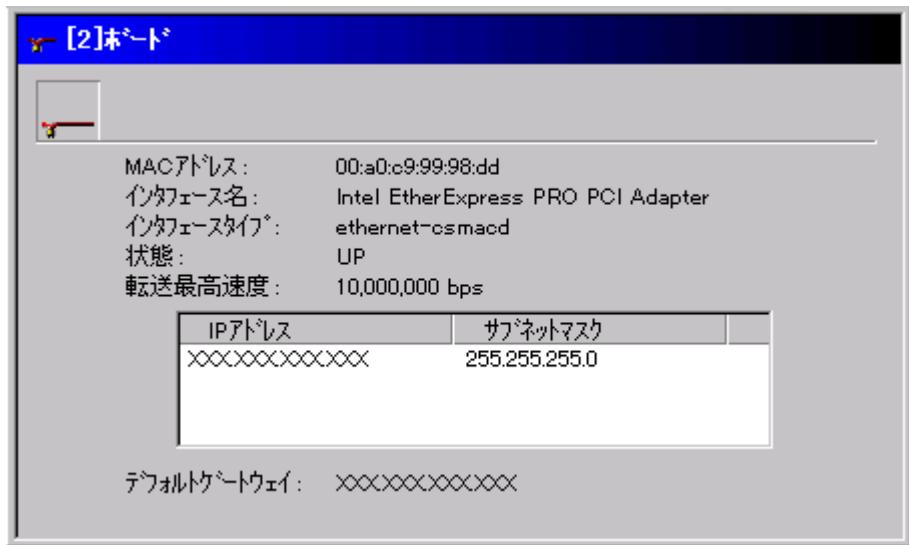
ネットワークフォルダを選択すると選択されたクライアントに装着されているネットワークポートの情報を見ることができます。ネットワークフォルダには2つの画面があります。フォルダを選択すると、情報ビューに表示します。

- 1) ボード画面
- 2) IPアドレス画面
- 3) デフォルトゲートウェイ画面
- 4) DNS画面

(1) ボード画面

ボードについての情報を表示します。

ボード画面では以下のような情報を表示します。



* MACアドレス

MACアドレスを表示します。

* インタフェース名

ネットワークインターフェースの名称を表示します。

* インタフェースタイプ

ネットワークインターフェースのタイプを表示します。

* 状態

ネットワークインターフェースの状態を表示します。

* 転送最高速度

ネットワーク上の転送最高速度を表示します。単位はbps (bit per second) です。

* IPアドレス・サブネットマスク

IPアドレスとそのサブネットマスクを一覧表示します。

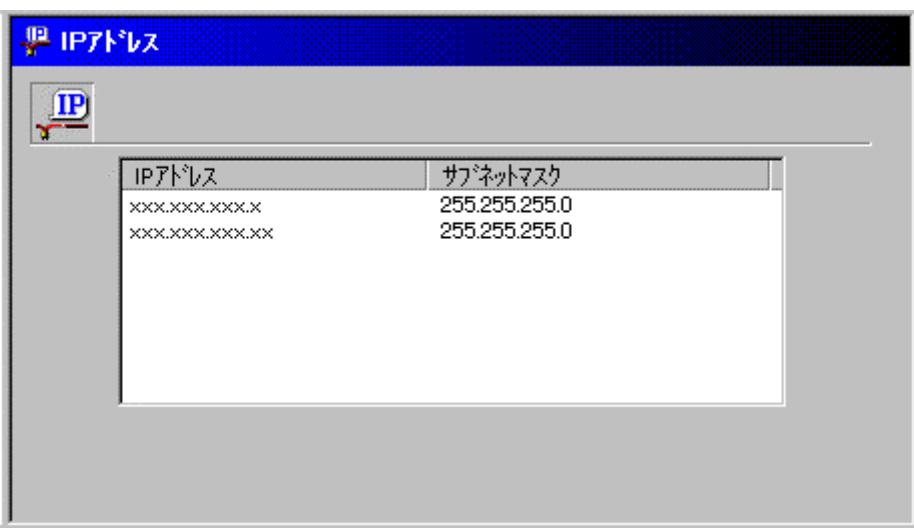
* デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを表示します。

(2) IPアドレス画面

IPアドレスについての情報を表示します。

IPアドレス画面では以下のような情報を表示します。



IPアドレス	サブネットマスク
xxxx.xxxx.xxxx.x	255.255.255.0
xxxx.xxxx.xxxx.xx	255.255.255.0

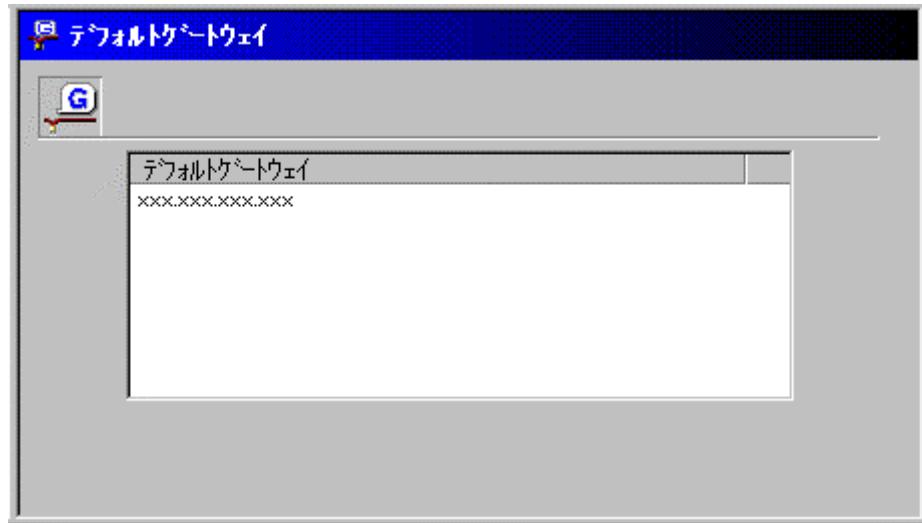
* IPアドレス・サブネットマスク

IPアドレスとそのサブネットマスクを一覧表示します。

(3) デフォルトゲートウェイ画面

デフォルトゲートウェイについての情報を表示します。

デフォルトゲートウェイ画面では以下のような情報を表示します。



* デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを一覧表示します。

(4) DNS画面

DNSについての情報を表示します。

DNS画面では以下のような情報を表示します。



* ホスト名

クライアントのホスト名称を表示します。

* ドメイン名

クライアントの所属するドメイン名称を表示します。

* ドメインの検索順序

名前解決時にホスト名に付加されるDNSドメインサフィックスを一覧表示します。

* DNSサーバ

DNSサーバのIPアドレスを一覧表示します。

6.3.13 ソフトウェア

ソフトウェア情報について表示します。

ソフトウェア名とそのバージョンを一覧表示します。



ソフトウェア名	バージョン
ユースフルパック セットアップ*	不明
添付アプリケーション セットアップ*	不明
Data Access Objects (DAO...)	不明
Microsoft Visual C++	不明
Microsoft Office Profession...	不明
Microsoft Project 4.1	不明
Microsoft(R) Plus! for Wind...	不明
Microsoft Access Develop...	不明
Microsoft Access Licensing	不明

* ソフトウェア名

インストールされているソフトウェアの名称を表示します。

* バージョン

インストールされているソフトウェアのバージョンを表示します。

6.3.14 パフォーマンス

パフォーマンスについての情報を表示します。

パフォーマンス画面では以下のような情報を表示します。



* **監視開始／停止ボタン (ディスク)**

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。

* **監視間隔設定コンボボックス (ディスク)**

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* **ドライブ情報ボタン (ディスク)**

グラフビューアを起動し、選択されたドライブの使用率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* **ドライブ情報 (ディスク)**

ドライブごとに状態色・ドライブ名・全容量・空き容量・使用率を表示します。状態色、空き容量、使用率は、監視を行っている間だけ表示します。

* メモリタブ

表示するメモリ情報の種類を物理メモリ・ページファイルの中から選択します。

* 監視開始／停止ボタン (メモリタブ)

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。

* 監視間隔設定コンボボックス (メモリタブ)

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* サイズ (メモリタブ)

現在選択されているメモリ全体のサイズを表示します。単位はKバイトです。

* 空きサイズ (メモリタブ)

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの空きサイズを表示します。単位はKバイトです。監視を行っている間だけ表示します。

* 使用サイズボタン (メモリタブ)

グラフビューアを起動し、使用サイズを表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* 使用サイズ (メモリタブ)

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの使用サイズを表示します。単位はKバイトです。監視を行っている間だけ表示します。

* 使用率ボタン (メモリタブ)

グラフビューアを起動し、使用率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* 使用率バー (メモリタブ)

現在選択されているメモリ全体からみたメモリの使用率をパーセンテージで表示します。監視を行っている間だけ表示します。

* 監視開始／停止ボタン (CPU)

現在選択されている監視間隔で監視を開始します。もしくは現在行っている監視を停止します。ただし、クライアントのOSがWindows 95、98の場合は、CPU負荷率の監視は行えません。

* 監視間隔設定コンボボックス (CPU)

監視間隔を設定します。監視を開始すると、ここで設定した時間間隔で定期的にクライアントの情報を取得します。ネットワーク構成によっては、ここで設定した時間内に情報が取得できない場合があります。そのような場合は、監視間隔を大きくしてください。

* CPU負荷率ボタン (CPU)

グラフビューアを起動し、CPU負荷率を表示します。グラフビューアについては、「6.4 グラフビューア」を参照してください。

* CPU負荷率バー (CPU)

最新のCPU負荷率をパーセンテージで表示します。監視を行っている間だけ表示します。

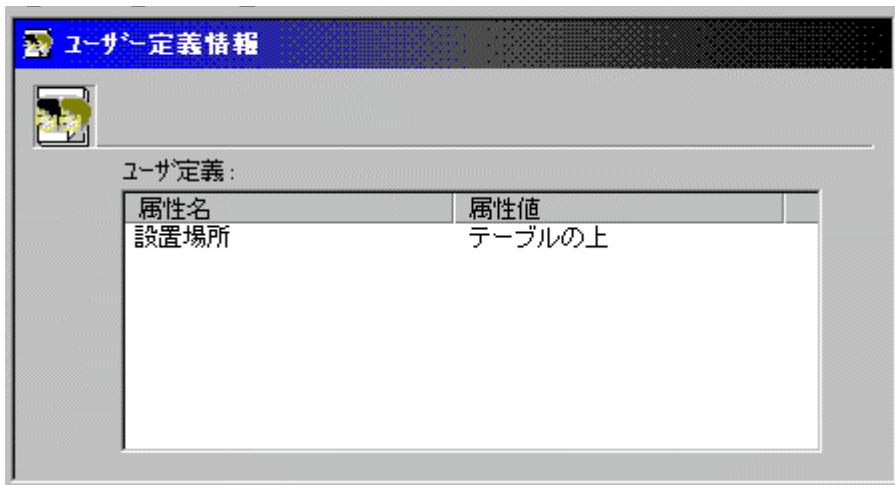
* クライアント障害監視設定 (性能) ボタン

「クライアント障害監視設定 (性能)」ダイアログボックスを開き、クライアント障害監視の設定を行います。「クライアント障害監視設定 (性能)」ダイアログボックスについては、「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

6.3.15 ユーザ定義情報

ユーザ定義情報について表示します。

ユーザ定義の属性名とその値を一覧表示します。ユーザ定義情報の詳細については、「14.2.3 ユーザ定義情報の設定」を参照してください。



* 属性名

ユーザ定義の属性名を表示します。

* 属性値

ユーザ定義の属性の値を表示します。

6.3.16 共通ダイアログボックス

各情報ビューから共通に表示するダイアログボックスには、以下の2つがあります。情報ビュー上の各ボタンを押すとそれぞれのダイアログボックスを表示します。

1) 装置情報ダイアログボックス

2) 使用情報ダイアログボックス

(1) 装置情報ダイアログボックス

装置情報について表示します。

「装置情報」ダイアログボックスでは以下のような情報を表示します。



* 説明

デバイスグループの説明を表示します。

* メーカー

デバイス製造会社を表示します。

* モデル

製造モデルを表示します。

* パーツ番号

製造パーツ番号を表示します。

* シリアル番号

製造シリアル番号を表示します。

* リビジョンレベル

リビジョンを表示します。

* 保証開始

保証を開始する日時を表示します。

* 保証期間

保証する期間の月数を表示します。

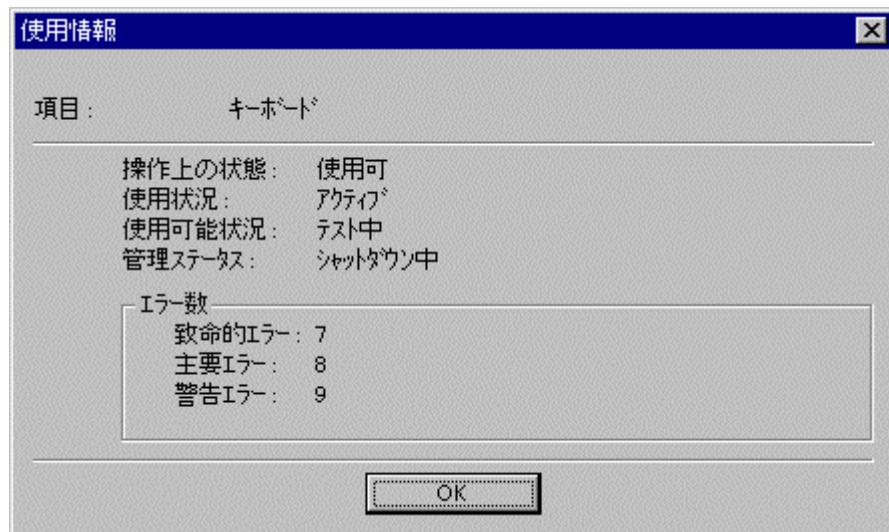
* サポート電話番号

サポートを行う電話番号を表示します。

(2) 使用情報ダイアログボックス

使用情報について表示します。

「使用情報」ダイアログボックスでは以下のような情報を表示します。



* 操作上の状態

操作上の状態を表示します。

* 使用状況

使用状況を表示します。

* 使用可能状況

使用可能状況を表示します。

* 管理ステータス

管理ステータスを表示します。

* 致命的エラー

致命的エラーの数を表示します。

* 主要エラー

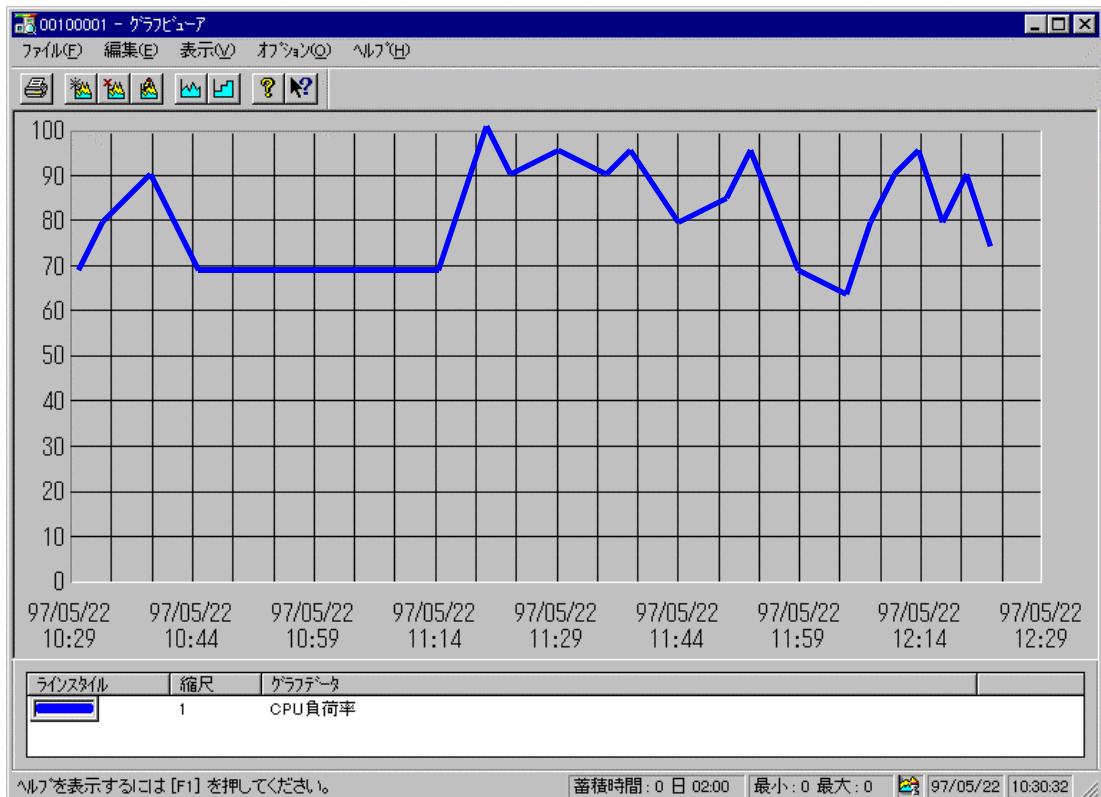
主要エラーの数を表示します。

* 警告エラー

警告エラーの数を表示します。

6.4 グラフビューア

データビューアの各情報ビューにて表示される情報のうち、グラフ表示が可能な情報についてはグラフ表示ボタン  が付加表示されます。<グラフ表示>ボタンを選択すると、グラフビューアが表示されます。



* メニューバー

メニューバーにはグラフビューアで使用できる機能がグループ別に示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。

* ツールバー

グラフビューアで全般的に使用する機能がボタンとして表示されます。ボタンを選択すると対応した機能が実行されます

* グラフエリア

グラフデータがそれぞれの属性（色や幅等）で描画されます。

折れ線グラフとステップグラフ（階段状グラフ）の2つで表示できます。

* ラインスタイル

グラフデータに対応する、線種と色を表示します。

* 縮尺

0.00001から100000の間の縮尺が可能です。

* グラフデータ

グラフ化している項目名を表示します。

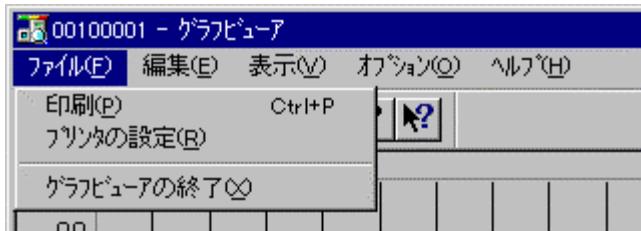
6.4.1 メニュー

次の5種類のメニューがあります

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) オプション
- 5) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

6.4.1.1 ファイルメニュー



- 「ファイル」・「印刷」
表示されているグラフを印刷します。
- 「ファイル」・「プリンタの設定」
印刷するプリンタの設定を行います。
- 「ファイル」・「グラフビューアの終了」
グラフビューアを終了します。

6.4.1.2 編集メニュー



- 「編集」・「グラフラインの追加」
グラフにデータを追加するためのダイアログボックスを表示します。

- 「編集」・「グラフラインの削除」

選択されているグラフデータを削除します。

- 「編集」・「グラフラインの編集」

選択されているグラフデータの属性を変更するためのダイアログボックスを表示します。

- 「編集」・「クリア」

表示されているグラフを消去し、その時点から情報の収集をし直します。

6.4.1.3 表示メニュー



- 「表示」・「ツールバー」

ツールバーの表示、非表示の切り替えを行います。

- 「表示」・「ステータスバー」

ステータスバーの表示、非表示の切り替えを行います。

- 「表示」・「凡例」

凡例（ライン情報）の表示、非表示の切り替えを行います。

6.4.1.4 オプションメニュー



- 「オプション」・「グラフ」

グラフの「オプション」ダイアログボックスを表示し、オプションを変更します。

6.4.1.5 ヘルプメニュー



- 「ヘルプ」・「トピックの検索」

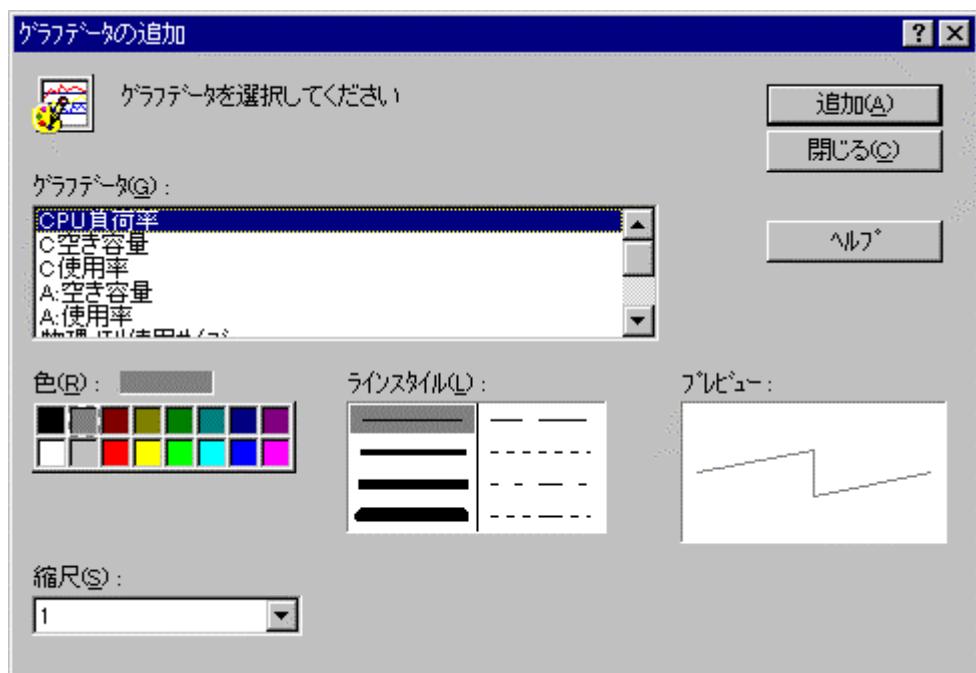
グラフビューアのヘルプファイルの目次を開きます。

- 「ヘルプ」・「バージョン情報」

グラフビューアのバージョン情報を表示します。

6.4.2 グラフデータの追加ダイアログボックス

「グラフデータの追加」ダイアログボックスには次の情報とオプションがあります。



* グラフデータ

リストボックスからグラフビューアに追加する項目を選択します。現在表示されているグラフに追加可能な項目のみリストに表示されます。

* 色

グラフに表示する色を指定します。

* ラインスタイル

線の幅、線種を指定します。

* プレビュー

選択された線のプレビューを表示します。

* 縮尺

グラフの縮尺を指定します。

* 追加ボタン

選択された項目がグラフに追加されます。

* 閉じるボタン

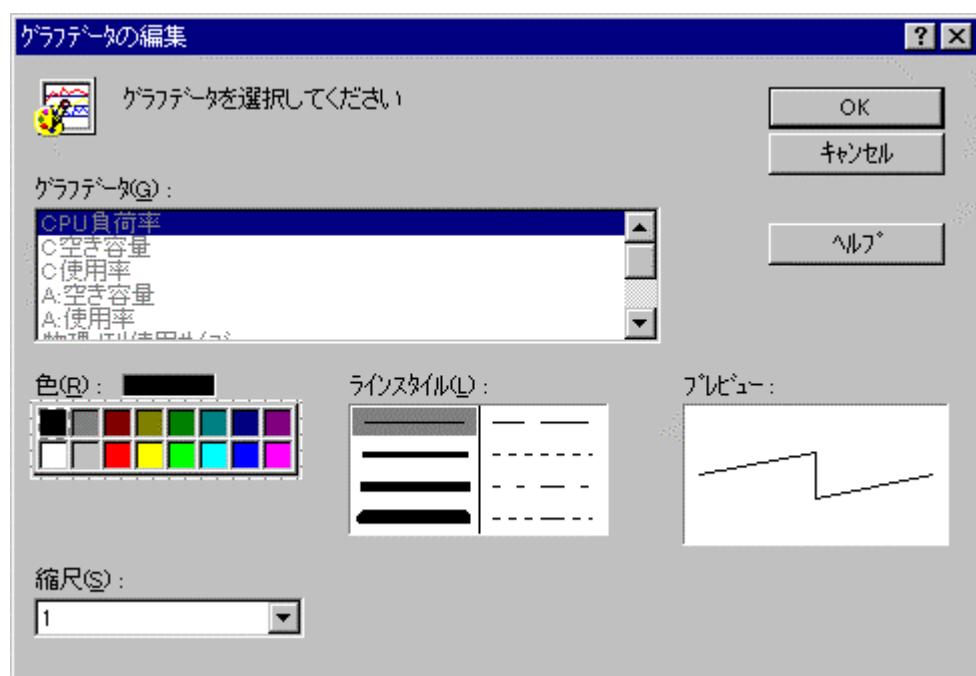
ダイアログボックスを閉じます。

* ヘルプボタン

オンラインヘルプを表示します。

6.4.3 グラフデータの編集ダイアログボックス

「グラフデータの編集」ダイアログボックスを使用してグラフの線種や色を変更します。



* 色

グラフに表示する色を設定します。

* ラインスタイル

線の幅、線種を設定します。

* プレビュー

選択された線のプレビューを表示します。

*** 縮尺**

グラフの縮尺を設定します。

*** OKボタン**

新たに指定されたオプションを用いてグラフの線を引きなおします。

*** キャンセルボタン**

何も変更を行わず、ダイアログボックスを閉じます。

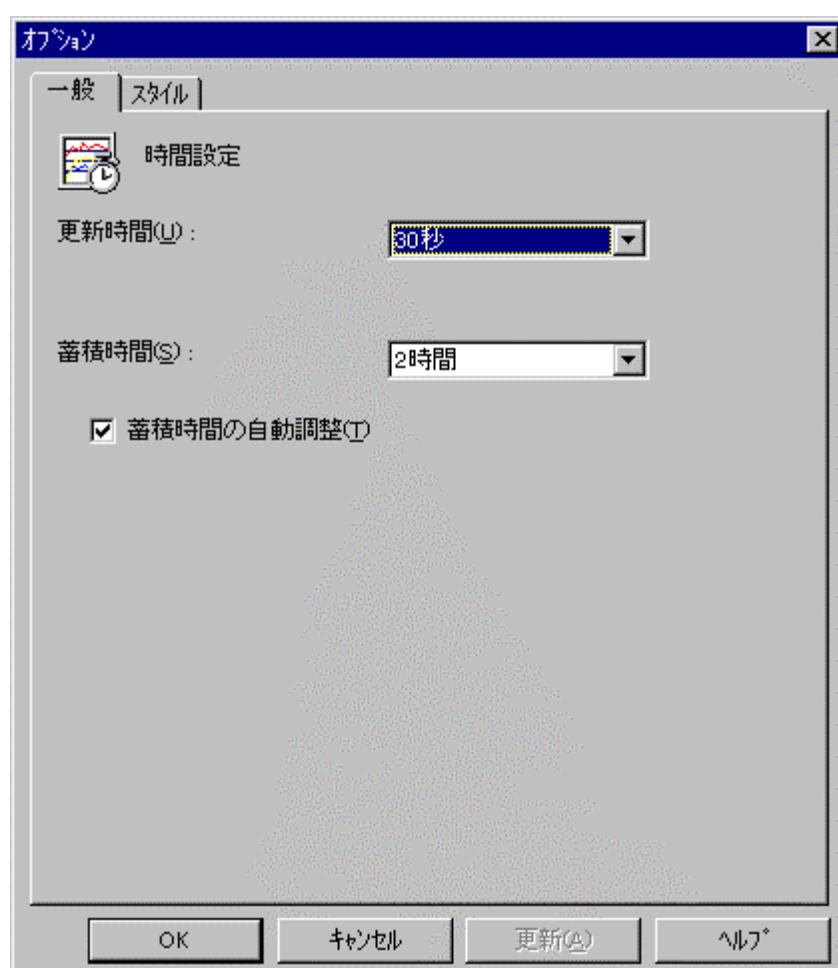
*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプを表示します。

6.4.4 オプションダイアログボックス

「オプション」ダイアログボックスを使用しグラフ表示形式を設定することが可能です。

6.4.4.1 一般ページ



*** 更新時間**

グラフを更新する間隔を設定します。

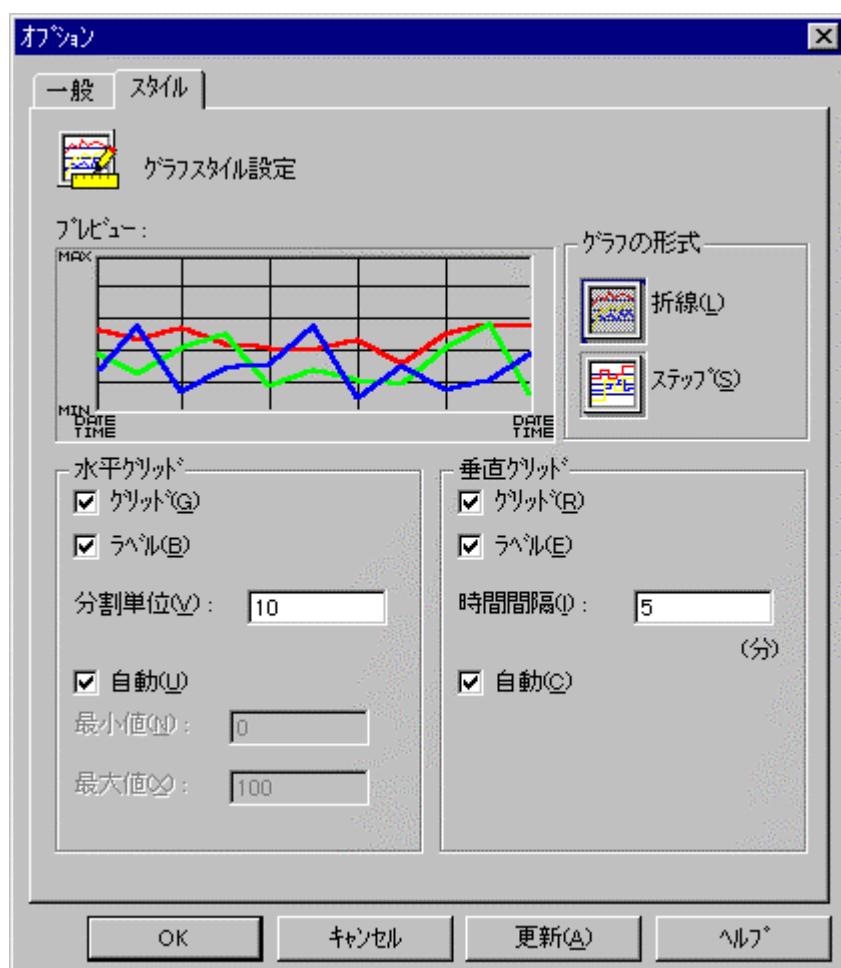
* 蓄積時間

グラフデータを蓄積する時間を設定します。

* 蓄積時間の自動調整

メモリ不足等により設定した蓄積時間分のデータが蓄積できない時に自動で蓄積時間を短縮します。

6.4.4.2 スタイルページ



* プレビュー

グラフの形式で設定したオプションのプレビューを表示します。

* グラフの形式

折れ線グラフ、ステップグラフのどちらかを選ぶことができます。

* 水平グリッドーラベル

水平グリッドの表示・非表示の設定を行います。

* 水平グリッドーラベル

水平グリッドラベルの表示、非表示の設定を行います。

*** 水平グリッド一分割単位**

水平グリッドの間隔を設定します。 (グリッドまたはラベルがONの時のみ有効)

*** 水平グリッド一自動**

水平グリッドの上限と下限を自動で設定します。

*** 水平グリッド一最小値**

水平グリッドの最小値を設定します。 (自動がOFFの時のみ有効)

*** 水平グリッド一最大値**

水平グリッドの最大値を設定します。 (自動がOFFの時のみ有効)

*** 垂直グリッド一グリッド**

垂直グリッドの表示・非表示の設定を行います。

*** 垂直グリッド一ラベル**

垂直グリッドラベルの表示、非表示の設定を行います。

*** 垂直グリッド一時間間隔**

垂直グリッドの間隔を設定します。 (グリッドまたはラベルがONの時のみ有効)

*** 垂直グリッド一自動**

水平グリッドの上限と下限を自動で設定します。

*** OKボタン**

指定されたオプションに従ってグラフビューアを書き直し、ダイアログボックスを閉じます。

*** 更新ボタン**

指定されたオプションに従ってグラフビューアを書き直します。 (Windows NT4.0の場合、<更新>ボタンは、<適用>ボタンになります。)

*** キャンセルボタン**

何も変更せずにダイアログボックスを閉じます。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプを表示します。

6.5 CM データビューアカスタマイズツール

CMデータビューアカスタマイズツールを使用して、CMデータビューアの画面をカスタマイズすることができます。カスタマイズ可能な項目は、以下のとおりです。

- **ツリービューに表示する情報（アイテム）を選択**

CMデータビューアのツリービューに表示する情報（アイテム）を、選択することができます。

- **ツリービューに表示する情報（アイテム）の位置を変更**

CMデータビューアのツリービューに表示する情報（アイテム）の位置を、変更することができます。

CMデータビューアカスタマイズツールを起動するには、タスクバーの[スタート]メニューから、[プログラム(P)] – [ESMPRO_CM] – [CMデータビューア カスタマイズ]を選択してください。

6.5.1 アイテム選択

CMデータビューアのツリービューに表示するアイテムを、選択することができます。

CMデータビューアカスタマイズツールに表示されている、アイテム名の左側のチェックボックスをマウスでクリックしてください。チェックボックスのチェック状態が変わります。CMデータビューアで表示したいアイテムをチェック状態に、表示したくないアイテムを非チェック状態にしてください。

チェック状態の変更は、メニューからも行うことができます。チェック状態を変更したいアイテムを選択し、[編集(E)]メニューの[表示(S)]コマンド、または[非表示(R)]コマンドを選択してください。

変更した内容を有効にするには、[ファイル(F)]メニューの[保存(S)]コマンドを選択してください。次回CMデータビューア起動時より、有効になります。

ツリービューに表示するアイテムの数が少ないほど、CMデータビューアの起動に要する時間が短くなります。

6.5.2 アイテム表示位置の変更

CMデータビューアのツリービューに表示するアイテムの表示位置を、変更することができます。位置を変更したいアイテムを選択し、ツールバーの<上へ>ボタン▲、または<下へ>ボタン▼を押してください。表示位置の変更は、メニューからも行うことができます。[編集(E)]メニューの[上へ(U)]コマンド、または[下へ(D)]コマンドを選択してください。CMデータビューアカスタマイズツールでの表示位置が、そのままCMデータビューアでの表示位置となります。

アイテムの表示位置は、同一フォルダ内でのみ変更できます。たとえば、「OS」フォルダ配下の「OS名」を、「システム」フォルダ配下に移動することはできません。

変更した内容を有効にするには、[ファイル(F)]メニューの[保存(S)]コマンドを選択してください。次回CMデータビューア起動時より、有効になります。

6.5.3 カスタマイズ情報のファイルへの保存

変更した内容（カスタマイズ情報）を、ファイルへ保存することができます。

新たにファイルへ保存する場合は、[ファイル(F)]メニューの[ファイルに名前を付けて保存(A)]コマンドを選択してください。[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名を入力し、<保存(S)>ボタンを押してください。

カスタマイズ情報をファイルから読み込んでいる状態で、そのファイルに変更したカスタマイズ情報を上書き保存したい場合は、[ファイル(F)]メニューの[ファイルに上書き保存(E)]コマンドを選択してください。

ファイルへ保存しただけでは、変更した内容がCMデータビューアに対して有効になりません。有効にするには、[ファイル(F)]メニューの[保存(S)]コマンドを選択してください。ファイルへの保存は、CMデータビューアをカスタマイズする前に、現在の状態を保存しておきたい場合等に使用します。

ファイルへ保存したカスタマイズ情報を読み込むには、[ファイル(F)]メニューの[ファイルを開く(O)]コマンドを選択してください。[開く]ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名を入力し、<開く(O)>ボタンを押してください。ファイルからの読み込みは、ツールバーの<ファイルを開く>ボタンを押すことによっても行うことができます。

6.5.4 現在の設定に戻す

CMデータビューアカスタマイズツールで変更した内容を、現在CMデータビューアで有効となっている設定に戻すことができます。[編集(E)]メニューの[現在の設定に戻す(P)]コマンドを選択してください。

ツールバーの<保存>ボタン、または[ファイル(F)]メニューの[保存(S)]コマンドを選択して、変更した内容を保存してしまった場合は、変更した内容が現在の設定になってしまいます。現在の設定に戻す場合は、変更した内容を保存する前に実行してください。

6.5.5 既定値に戻す

CMデータビューアカスタマイズツールで変更した内容を、インストール時の状態に戻すことができます。[編集(E)]メニューの[既定値に戻す(I)]コマンドを選択してください。

〔既定値に戻す(I)〕 コマンドを選択すると、CMデータビューアカスタマイズツールは、インストール時の状態を表示します。CMデータビューアで有効とするには、〔ファイル(F)〕メニューの〔保存(S)〕 コマンドを選択してください。